

3 応急対策活動

3.1 災害対策本部設置と職員配備体制

銚子市役所では地震発生後、ただちに災害対策本部を設置しました。また、「銚子市地域防災計画」に基づく職員配備体制により震災の応急対策活動を実施しました。

< 災害対策本部の設置及び応急対策活動等 >

表-3.1 災害対策本部の設置及び応急対策活動等

時刻	地震・津波の事象等	災害対策本部の設置及び応急対策活動等
3月11日（金）		
14:46	地震発生（本震・震度5強：気象庁観測点）	
14:49	津波警報発表	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協働課において防災行政無線放送 ・市内西部（駅前大通りから西側）は停電 ・防災メール配信については市役所サーバーが停電のため使用できず
15:10	-	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策本部設置（市役所2階地域協働課横の部屋） 市職員550人、消防本部70人、消防団511人の配備体制 ・市内全域に避難勧告発令 ・関係機関との連絡調整 銚子市消防本部や銚子警察署に連絡し、市内の被害状況を確認 千葉県災害対策本部に連絡し、市内の被害状況報告や救援物資の調整を実施
15:13	津波の第一波が到達（津波2.3m：気象庁観測点）	
15:14	大津波警報発表	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協働課において防災行政無線放送（参考：かもめ大橋通行止め） ・市役所関連施設の被害状況確認
15:15	茨城県沖で最大余震発生（震度5強：気象庁観測点）	
17:22	最大の津波が到達（津波2.5m：気象庁観測点）	
17:30	-	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所防災倉庫に津波浸水、物資をロビーへ運び出し ・各課からの応援職員で避難所配布用物資の仕分け作業、配達開始
3月12日（土）		
7:42	-	・千葉県へ4,500人分の飲料水、食糧を要請（結果4,000人分なら可能の連絡）
7:55	-	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所通電、市内は主に10：20頃から停電復旧 ・市役所サーバーが通電により復旧し、防災メール配信を開始
9:00	-	・自家発電燃料、避難所用灯油調達
13:50	津波注意報発表	-
16:30	-	・市内全域避難勧告解除
21:00	-	・数カ所の避難所へ灯油配達
3月13日（日）		
-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所玄関前に移動交番設置～3月25日まで ・各避難所では避難者が帰宅するのを待って順次閉鎖撤収 残っていた避難住民を青少年文化会館中ホールへ案内 ・最終となる青少年文化会館については18日17：15で閉鎖 以降は市役所1階ロビーを一時避難所にする（23日最終4人）
17:58	津波注意報解除	-
3月14日（月）～		
-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所通常業務開始 ・3月22日の8：30まで、地域協働課職員交代で24時間本部勤務 ・それ以降は8：30～17：15勤務で通常業務と災害対策本部事務を行う ・土のう袋、ブルーシートが品不足（市内） ・ガソリンが不足（市内） ・市役所ロビーに臨時窓口設置
3月16日（水）～		
-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・3月19日～21日の3連休に職員目視の市内被害状況調査を実施 ・4月18日 災害対策・復旧本部に変更 ・9月30日 12：00 災害対策本部廃止（災害復旧本部は継続）

< 職員配備体制 >

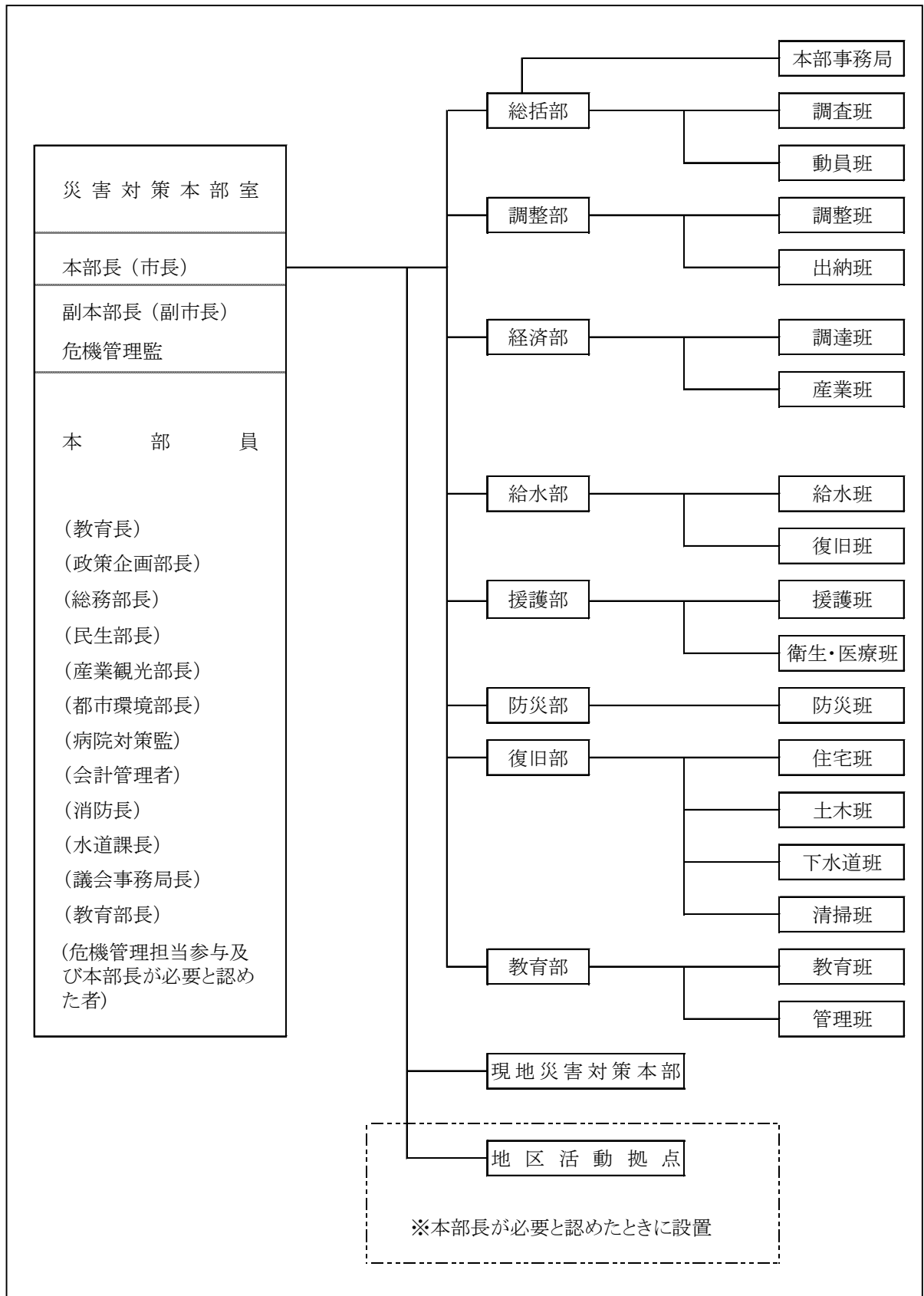


図-3.1 銚子市市職員の災害時における配置

3.2 災害時における各部の分掌事務内容

銚子市職員は各部で決められた分掌事務内容に基づき応急活動を実施しました。

表-3.2 災害時における各部の分掌事務内容（1）

部 名	班 名	課等名	分掌事務
総括部 ◎総務部長	本部事務局 ◎地域協働課長 ○総務課長	地域協働課 総務課 選挙管理委員会 事務局	1 災害対策本部に関する事。 2 本部室に関する事。 3 各部各班との連絡調整に関する事。 4 防災関係機関との連絡調整に関する事。 5 国及び県との連絡調整に関する事。 6 災害救助法の適用申請に関する事。 7 自衛隊の応援派遣要請に関する事。 8 市町村間の応援派遣要請に関する事。 9 町内会その他自主防災組織との連絡調整に関する事。 10 市庁舎等の被害調査及び復旧に関する事。 11 庁舎内災害用独立電源の確保及び臨時電話の架設に関する事。 12 防災行政無線局及びアマチュア無線との連絡に関する事。 13 自動車の配車に関する事。 14 避難勧告・指示の伝達に関する事。 15 避難者の誘導に関する事。 16 被災地の交通事故防止及び交通指導に関する事。
	動員班 ◎職員課長	職員課	1 職員（消防職員を除く。）の動員及び配置に関する事。 2 災害職員に関する事。 3 職員及び応援派遣職員等の食料の確保及び健康管理に関する事。 4 災害対策基本法による派遣された職員の身分取扱いに関する事。
	調査班 ◎税務課長	税務課	1 人的被害及び建物被害の調査に関する事。 2 被害申出の受付に関する事。 3 災害証明の発行に関する事。
調整部 ◎政策企画部長 ○議会事務局長 ○会計管理者	調整班 ◎秘書政策課長 ○財政課長 ○監査委員事務局長	秘書政策課 財政課 監査委員事務局 議会事務局	1 被害状況調査の総括に関する事。 2 被害状況のとりまとめに関する事。 3 各部各班への支援に関する事。 4 災害復旧計画の策定準備に関する事。 5 災害関係予算の編成及び執行管理に関する事。 6 その他財政に関する事。 7 災害視察者及び見舞者の接遇に関する事。 8 災害の写真記録に関する事。 9 市民への災害広報に関する事。 10 報道機関との連絡調整に関する事。 11 被災者の相談に関する事。
	出納班 ◎会計課長補佐	会計課	1 災害資金の出納に関する事。 2 義援金の出納に関する事。

表-3.3 災害時における各部の分掌事務内容（2）

部 名	班 名	課等名	分掌事務
経 済 部 ◎産業観光部長	調 達 班 ◎観光商工課長	観光商工課	1 主要食糧の調達に関する事 2 被服、寝具その他生活必需品の調達に関する事。
	産 業 班 ◎水産課長 ○農産課長	水産課 農産課 農業委員会事務局	1 商工・観光業の被害調査及び復旧に関する事。 2 水産業の被害調査及び復旧に関する事。 3 農産業の被害調査及び復旧に関する事。 4 り災商工、農林水産業者の金融対策に関する事。
給 水 部 ◎水道課長	給 水 班 ◎水道課長補佐 (業務担当)	管理班 経理班	1 応急給水に関する事。 2 水道施設の被害調査に関する事。
	復 旧 班 ◎水道課長補佐 (工務担当) ○浄水場長	建設班 配水班 給水装置班 浄水班 水質班	1 水道施設の応急修理に関する事。
援 護 部 ◎民生部長 ○病院対策監	援 護 班 ◎社会福祉課長 ○障害福祉課長 ○高齢者福祉課長	社会福祉課 障害福祉課 高齢者福祉課	1 福祉施設の被害調査及び復旧に関する事。 2 り災者に対する見舞金の支給並びに主要食糧及び被服、寝具その他生活必需品の給与又は貸与に関する事。 3 り災児童及び母子世帯等の援護に関する事。 4 日本赤十字社千葉県支部との連絡調整に関する事。 5 生業資金の貸付事務の取次ぎに関する事。 6 災害弔慰金の支給及び災害援護資金の貸付に関する事。 7 民間ボランティア団体及び個人ボランティアの受入れ及び調整に関する事。 8 災害時要援護者の救護に関する事。(福祉避難所の開設及び管理運営を含む。)
	衛 生 医 療 班 ◎健康管理課長 ○保険年金課長 ○市民課長 ○病院再生室長	健康管理課 保険年金課 市民課 病院再生室	1 防疫業務に関する事。 2 り災者の健康管理に関する事。 3 死体の収容及び処理(仮埋葬を含む。)に関する事。 4 り災者の安否確認に関する事。 5 医療関係施設の被害調査及び復旧に関する事。 6 救護所の設置及び運営に関する事。 7 医療及び助産に関する事。 8 銚子市医師会、銚子市歯科医師会及び千葉県薬剤師会銚子支部との連絡調整に関する事。

表-3.4 災害時における各部の分掌事務内容（3）

部 名	課等名	分掌事務
		9 医薬品、医療用器具等の調達に関する事 10 トリアージタックの回収に関する事
防災部 ◎消防長	防災班 ◎消防次長 ○消防署長	消防本部 消防署 1 消防機関の動員及び配置に関する事 2 災害の防ぎよに関する事 3 り災者の救出に関する事 4 行方不明者の捜索に関する事 5 水防活動に関する事
復旧部 ◎都市環境部長	住宅班 ◎都市整備課長	都市計画班 住宅班 建築班 1 公営住宅の被害調査及び復旧に関する事 2 野外収容施設の設置に関する事 3 応急仮設住宅の建設に関する事 4 応急仮設住宅の入居者選定に関する事 5 り災住宅の応急修理に関する事 6 住宅資金の貸付（利子補給を含む。）事務に関する事 7 被災建物の応急危険度判定に関する事
	下水道班 ◎都市整備課主幹	下水道管理班 下水道工務班 1 公共下水道施設の被害調査及び復旧に関する事 2 住宅団地下水道施設の被害調査及び復旧に関する事 3 復旧部各班への支援に関する事
	土木班 ◎土木課長	土木課 1 道路、橋りょう、崖崩れ、河川等の被害調査及び復旧に関する事 2 障害物の除去に関する事 3 災害による危険区域の設定に関する事 4 人夫の雇上げに関する事 5 復旧用資機材の確保に関する事 6 土木業者及び建設業者との連絡調整に関する事
	清掃班 ◎生活環境課長	生活環境課 1 がれきの処理に関する事 2 環境衛生施設の被害調査及び復旧に関する事 3 応急仮設トイレの設置及び管理に関する事 4 ごみ及びし尿の収集並びに処理に関する事 5 被災地における環境保全等に関する事

表-3.5 災害時における各部の分掌事務内容（4）

部 名	班 名	課等名	分掌事務
教育部 ◎教育長 ○教育部長	教育班 ◎学校教育課長	学校教育課 学校給食センター 小児言語指導センター	1 応急教育対策に関すること。 2 学用品の調達及び給与に関すること。 3 炊き出しに関すること。
	管理班 ◎教育総務課長 ○生涯学習課長 ○スポーツ振興課長	教育総務課 生涯学習課 スポーツ振興課 青少年文化会館 市民センター 公正図書館 市立銚子高等学校	1 教育施設の被害調査及び復旧に関すること。 2 避難所（福祉避難所を除く。）の開設及び管理運営に関すること。

（注）◎は部長又は班長を、○は副部長又は副班長を示す。

災害対策本部の概要

- ・ 災害対策本部には、本部室を設け、災害に対する基本方針及びその他重要事項を審議策定する。
- ・ 災害対策本部には、部及び班を設け、部には部長を、班には班長を置く。
- ・ 部長は、分掌事務に基づき、所属班長を指揮監督する。
- ・ 班長は、部長の命を受け、所属班員を指揮監督する。
- ・ 班員は、班長の命を受け、分掌事務に従事する。

災害対策本部本部室の概要

- ・ 本部室の構成は、本部長、副本部長、本部員（各部長及び部長相当職、水道課長、その他本部長が必要と認める者）をもって充てる。

本部室会議の運営

本部長は、災害に関する情報を分析し、災害応急対策に関する基本方針その他重要事項を審議策定するため、本部室会議を開くものとする。

本部室会議は、本部長、副本部長、本部員及び本部長が必要と認めた本部職員で構成する。

また、本部員に事故があったときは、当該部の職員が代理として出席する。

本部室会議は、本部長が召集し、次の事項を審議決定するものとする。

- ア 災害応急措置に関すること
- イ 避難勧告等の避難対策に関すること
- ウ 自衛隊派遣要請に関すること
- エ その他重要事項に関すること

3.3 避難所の開設と避難者数

今回の震災では小学校 13 校、中学校 8 校、高校 3 校、青少年文化会館や銚子市体育館など 26 箇所で開催しました。

地震が発生した 3 月 11 日には、清水小学校へ避難した住民が約 600 人に及びました。この避難者数は市内で最も多くなりました。次に多かったのが明神小学校と青少年文化会館の約 500 人でした。

3 月 11 日に開設した避難所へ避難した住民は、合わせて約 4,391 人（平成 23 年 3 月 1 日の銚子市人口 69,517 人（住民基本台帳）の 6.3%）でした。また、3 月 11～14 日の 4 日間では、延べ 11,001 人の住民が避難所へ避難しました。

表-3.6 避難所の開設と避難者数

避難所(開設)	11日23:00	12日8:00	12日10:00	12日13:00	12日22:00	13日8:30	14日8:30	合計
清水小学校	600	300	300	100	6	0	0	1,306
明神小学校	500	120	120	120	38	5	0	903
高神小学校	220	200	200	200	40	0	0	860
飯沼小学校	0	0	0	0	0	0	0	0
双葉小学校	265	150	150	150	30	10	0	755
春日小学校	435	435	300	300	15	15	0	1,500
本城小学校	55	5	5	5	0	0	0	70
海上小学校	350	150	150	150	0	0	0	800
猿田小学校	70	22	22	10	0	0	0	124
船木小学校	80	80	40	40	14	14	0	268
椎柴小学校	30	3	3	0	0	0	0	36
豊里小学校	3	0	0	0	0	0	0	3
豊岡小学校	0	0	0	0	0	0	0	0
第一中学校	130	40	40	40	8	0	0	258
第二中学校	200	100	100	0	0	0	0	400
第三中学校	200	200	150	75	40	40	0	705
第四中学校	88	40	20	20	8	0	0	176
第五中学校	50	200	100	100	0	0	0	450
第六中学校	30	20	11	11	0	0	0	72
第七中学校	0	0	0	0	0	0	0	0
第八中学校	19	0	0	0	0	0	0	19
県立銚子高校	5	0	0	0	0	0	0	5
県立銚子商業	134	50	50	50	2	0	0	286
市立銚子高校	300	150	150	150	10	27	0	787
青少年文化会館	500	170	170	170	50	16	15	1,091
銚子市体育館	127	0	0	0	0	0	0	127
合計	4,391	2,435	2,081	1,691	261	127	15	11,001

※避難者数は当時のおよその人数です。

※12日の日中に島田総合病院に50人ほど避難者がありましたが、夜には他の避難所に移動しました。

※青少年文化会館では15日11人、16日11人、17日11人、18日11人の避難者が存在しましたが、18日には避難所を閉鎖しました。

(銚子市調べ)

3.4 情報の広報活動

3月11日の地震発生直後から防災行政無線により、震災に関する情報を市内全域に放送しました。また、消防団や警察関係者も地域や避難所を巡回して広報活動や避難者誘導を行いました。

表-3.7 防災行政無線の放送時刻及び放送内容

3月11日	14:49	<津波警報発表>	3月12日	0:10	大津波広報	3月14日	7:30	JR運休
	14:55	地震津波広報		6:35	大津波広報		9:30	JR運休
	15:00	地震津波広報		7:00	給水広報		9:40	停電広報
	15:10	避難勧告発令		7:30	大津波広報		12:00	JR運休
	15:14	<大津波警報発表>		7:40	停電広報	3月15日	7:30	JR運休
	15:20	大津波切替広報		8:00	大津波広報		9:30	計画停電
	15:35	大津波広報		13:50	<津波注意報切替>		13:10	計画停電中止
	16:40	大津波広報		13:55	津波注切替広報	3月16日	7:00	計画停電中止
	17:10	大津波広報		14:00	給水広報		12:52	地震広報
	17:15	断水連絡		16:00	給水広報		14:00	計画停電中止
	17:30	大津波広報		16:30	避難勧告解除	3月17日	7:00	JR運休
	17:35	断水連絡		3月13日	17:58		<津波注意報解除>	
	17:40	大津波広報	18:00		注意報解除広報			
	17:50	大津波広報						
	19:15	停電広報						
	21:00	停電広報						
	21:10	大津波広報						
	22:15	断水連絡						
	23:25	大津波広報						

※ 黄色の箇所は気象情報発表時刻です
防災無線の放送時刻・内容ではありません

震災後には「広報ちょうし」や市役所のホームページ等で、市内の被災情報の広報活動を行いました。特に「広報ちょうし災害特別号（4月）」については、全戸へ配布することで、被害状況や救助・生活支援情報の提供等を実施しました。

全戸配布

～市民の皆さまへ～

広報ちょうし
災害特別号

東北地方太平洋沖地震 関連情報

平成23年4月1日発行 発行／編集 銚子市災害対策本部

3月11日(金)14時46分ころ、三陸沖を震源とするマグニチュード(M)9.0の「東北地方太平洋沖地震」が発生し、銚子市でも甚大な被害を受けました。被災された多くの市民の皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。

この特別号は、広報ちょうし4月号でお伝えしきれなかった内容を掲載しています。4月号(2・3面)と併せてご活用ください。また、この情報は3月28日(月)現在の情報です。最新の情報は、市ホームページの「地震関連情報」でご確認ください。

被災者生活再建支援金の支給

このたびの震災により、千葉県内において多数の住宅被害が発生していることから、県内全域が被災者生活再建支援法に定める自然災害に該当し、同法が適用されることになりました。これにより、住宅が全壊した世帯や大規模半壊した世帯などには、被災者生活再建支援金が支給されます。

◆支給対象となる世帯

このたびの地震や津波により次の住宅被害を受け、銚子市からその被害程度を証する「災証明書」の交付を受けた世帯です。

- 住宅が全壊(全焼・全流出を含む)した世帯
- 住宅が半壊(半焼を含む)、または住宅の敷地に被害が生じ、その住宅をやむを得ず解体した世帯
- 災害による危険な状態が継続し、住宅に居住することができない状態が長時間継続している世帯
- 住宅が半壊し、大規模な補修を行わなければ居住することが困難な世帯(大規模半壊世帯)

◆支援金の支給額

世帯の構成員が複数(複数世帯)の場合、「基礎支援金」として全壊世帯に100万円、大規模半壊世帯に50万円が支給されます。

また、「加算支援金」として、住宅を建設、購入する場合は200万円、補修する場合は100万円、賃借する場合は50万円加算されます。

なお、単身世帯の支給額は、複数世帯に対する支援金の4分の3となります。

◆申込・問合せ 地域協働課 TEL(24)8193

災害見舞金の支給

市からの災害見舞金

区分	見舞金	支給を受ける方
全壊	1世帯につき5万円	世帯主
半壊	1世帯につき2万円	
床上浸水	1世帯につき1万円	
傷害	1人につき5千円	被災者本人

※傷害:災害により負傷し、15日以上入院加療を要すると診断された方

日本赤十字社からの災害見舞金

区分	見舞金	支給を受ける方
全壊 半壊 床上浸水	1世帯につき5千円	世帯主
重傷	1人につき5千円	被災者本人

※重傷:災害により負傷し、入院された方

◆対象 本市に住所を有し、住民基本台帳に記録または外国人登録原票に登録されている方で、住家に災害を受けた方、または災害により傷害を受けた方

◆手続き

市からの災害見舞金

- ① 災証明書の交付申請(税務課)
- ② 災証明書により確認(社会福祉課)
- ③ 災害見舞金等支給申請書の提出
- ④ 見舞金の支給

日本赤十字社からの災害見舞金

市への災害見舞金支給の手続きを行うことにより、あわせて支給されます。

◆申込・問合せ 社会福祉課 TEL(24)8195

被災された方への短期宿泊の受け入れ

銚子市旅館組合、銚子民宿組合では、このたびの地震で被災された方々へ宿泊場所を提供します。

受入地域が組合ごとに異なりますのでご注意ください。

銚子市旅館組合

- ◆受入地域 銚子市、旭市、匝瑳市、東庄町、香取市、神栖市、鹿嶋市にお住まいで、このたびの地震により被災された方
- ◆宿泊施設 銚子市旅館組合加盟の21施設 159部屋
- ◆宿泊料金(素泊まり1泊)
 - 大人3,000円
 - 子ども(寝具付き)2,000円 ※添い寝は無料
- ◆食事料金 ○夕食=1,000円から
○朝食=500円から
※料金は施設により異なります。
- ◆受入期間 4月30日(土)まで
- ◆申込・問合せ 銚子市観光協会 TEL(26)4755
※受付時間=9時~17時

銚子民宿組合

- ◆受入地域 福島県にお住まいで、このたびの地震により被災された方
- ◆宿泊施設 銚子民宿組合加盟の4施設 15部屋
- ◆宿泊料金(素泊まり1泊)
 - 大人・子ども(同一料金)2,000円
 - ※2歳以下の添い寝は要相談
- ◆食事料金 ○夕食=1,000円
○朝食=500円
- ◆受入期間 4月30日(土)まで
※延長の場合は要相談
- ◆申込・問合せ 民宿「犬若」TEL(25)1229

被災された方への市営住宅の入居者を募集

- ◆募集住宅 募集期間中に整備可能な住宅10戸程度
- ◆募集期間 4月20日(水)~5月10日(火)
※土・日、祝日を除く
- ◆申込方法 市役所4階都市整備課に備え付けの用紙に必要事項を記入の上、同課へ直接
- ◆申込要件 市が発行する「り災証明書」の交付を受け、住宅に困っている方。なお、入居には収入が一定の範囲内であることなどの条件があります。
- ◆その他 家賃、敷金は減免または支払猶予の措置があります。また、この住宅のほかに、中堅所得者を対象とした特定市営住宅も随時募集中です。
- ◆申込・問合せ 都市整備課 TEL(24)8899

被災地から銚子市へ転入される方

銚子市へ転入される被災地住民の方で、転出証明書を提出できない場合の転入届は、申し出により受け付けします。その後、住民基本台帳ネットワークの保有情報および戸籍などを確認することにより、住民票の記載を行います。

- ◆問合せ 市民課 TEL(24)8759

被災された方へ中古の畳を無料で交換します

畳組合銚子支部では、中古の畳の在庫があります。被災された方でご希望の場合は、無料で交換します。

- ◆申込・問合せ 畳組合銚子支部 支部長 佐藤清一郎さん TEL(22)5733

復旧資材(ブルーシート)を配布

市では、千葉県、JAちばみどりから災害応援物資の復旧資材として、ブルーシートの提供を受けました。住宅の被害に遭われた方にブルーシートを配布しています。応急保護などに活用してください。

- ◆配布時間 8時30分~17時15分
※土・日、祝日を除く
- ◆配布場所 市役所1階 消費生活センター
- ◆数量 被災1戸あたりブルーシート2枚
※ブルーシート1枚あたりの大きさは5.4m×3.6m
- ◆その他 受付で住所、氏名を記入してください。
- ◆問合せ 地域協働課 TEL(24)8193



融資制度のお知らせ

中小企業、水産業、農業など事業者向けの融資制度がありますのでご利用ください。このほか、銚子商工会議所や市内の金融機関でも、被災された方向けの融資制度を用意していますので、それぞれの窓口でご相談ください。

銚子市の制度

銚子市中小企業資金融資

- ◆融資額
 - 運転資金 1,200万円以内、5年以内の償還
 - 設備近代化資金 2,000万円以内、10年以内の償還
- ◆貸付金利 2.5～3.3% ◆利子補給率 1.64%
- ◆その他 金融機関および千葉県信用保証協会の金融審査あり
- ◆問合せ 観光商工課 TEL(24)8932

銚子市水産業者資金融資

- ◆融資額
 - 運転資金 1,200万円以内、1年以内の償還
- ◆貸付金利 2.5%
- ◆利子補給率 1.64%
- ◆その他 金融機関の金融審査あり
- ◆問合せ 水産課 TEL(24)8936

千葉県、日本政策金融公庫などの制度

災害復旧貸付

- ◆融資額 1億5,000万円以内
- ◆貸付金利 返済期間、担保の有無、そのほか個別の事情により異なる。融資後3年間に限り、貸付額のうち1,000万円を上限として0.9%の利率の特別措置あり
- ◆貸付期間 10年以内（2年以内の据置期間あり）
- ◆必要書類 り災証明書
- ◆問合せ ㈱日本政策金融公庫 TEL0120(154)505

千葉県漁業近代化資金

- ◆融資額 ○個人・法人 3億6,000万円以内
○共同利用 12億円以内
- ◆貸付金利 1.6%
- ◆その他 償還期間などは、お問い合わせください。
- ◆問合せ 千葉県信用漁業協同組合連合会銚子営業所 TEL(22)5405

災害関係保証

- ◆保証限度額 2億8,000万円
(無担保 8,000万円、普通 2億円)
- ◆保証割合 100%保証 ◆必要書類 り災証明書
- ◆問合せ 千葉県信用保証協会 TEL043(22)8111

千葉県農業近代化資金

- ◆融資額 ○個人 1,800万円以内 ○法人 2億円以内
○共同利用 15億円以内
- ◆貸付金利 1.6%
- ◆その他 償還期間などは、お問い合わせください。
- ◆問合せ 市内金融機関など

農林漁業セーフティネット資金

- ◆融資額 300万円以内
- ◆貸付金利 貸付期間に応じて0.75～1.05%
- ◆貸付対象 認定農業者
- ◆償還期間 10年以内（うち据置期間3年以内）
- ◆必要書類 り災証明書
- ◆問合せ ㈱日本政策金融公庫 TEL0120(154)505

農業経営基盤強化資金(スーパーL資金)

- ◆融資額 ○個人 1億5,000万円以内
○法人 5億円以内
- ◆貸付金利 貸付期間に応じて0.75～1.6%
- ◆その他 償還期間などは、お問い合わせください。
- ◆問合せ ㈱日本政策金融公庫 TEL0120(154)505

震災に便乗した 悪質商法や詐欺などに ご注意！

大規模な地震の後には、災害に便乗した屋根工事や家の補修工事を勧誘してくる点検商法や、かたり商法といった悪質商法が横行します。

悪質商法や義援金詐欺の被害に遭わないよう、十分注意してください。

- ◆問合せ 消費生活センター
TEL(24)8194

防災情報を携帯電話へメール配信

今回の災害では、防災無線や広報車両による市からのお知らせが聞こえないといった苦情が多く寄せられました。

市では、防災情報を携帯電話へメール配信するサービスを行っています。このサービスは、防災無線でお知らせしている気象警報などの情報を、皆さんの携帯電話へメール配信し、災害時に役立てていただくものです。ぜひご利用ください。

◆銚子市防災情報 携帯電話メール配信

<http://www.city.choshi.chiba.jp/bousai/>

※「完了通知メール」を受信しない場合には、携帯電話が受信拒否設定になっている可能性があります。「e-bousai.jp」ドメインからのメールを受信できるように、携帯電話の設定を変更してください。

- ◆問合せ 地域協働課 TEL(24)8193



水道課からお詫びとお知らせ

このたびの震災により、水道水の断水および濁り水が発生し、市民の皆さまに大変ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

水道課では、この震災の影響により、各家庭・事業所において、濁り水の解消などで増加した使用水量の取り扱いを検討中です。

取扱方法が決定しましたら、「広報ちょうし」などでお知らせしますので、ご理解をお願いいたします。

問合せ 水道課 ℡(24)8982

家屋の解体ごみの取り扱い

このたびの震災で出たがれき類は、現在、最終処分場または清掃センターに直接搬入をお願いしていますが、全壊などにより住めなくなった家屋の解体を予定されている方は、事前に生活環境課までご相談ください。

問合せ 生活環境課 ℡(24)8910

公共施設の状況

◆次の施設は、被害が大きいため、当分の間利用できません。ご迷惑をおかけいたします。

施設名	問合せ
青少年文化会館(大ホール)	青少年文化会館 ℡(22)3315
市野球場	市体育館 ℡(24)9559
銚子マリナー	観光商工課 ℡(24)8932
桜井町公園(野球場、少年野球場)	都市整備課 ℡(24)8945

◆市立病院は、通常どおり外来診療を行っています。また、夜間小児急病診療所も通常どおり開設しています（19時～22時 土・日、祝日を除く）。

施設名	問合せ
銚子市立病院	銚子市立病院 ℡(23)0011
銚子市夜間小児急病診療所	夜間＝同診療所 ℡(25)1501 日中＝健康管理課 ℡(24)8070

各種相談窓口

相談内容	問合せ	相談内容	問合せ
被災者の総合相談窓口	地域協働課 ℡(24)8193	水道に関すること	水道課 ℡(24)8982
り災証明書の発行(建物・自動車)	税務課 ℡(24)8952	高齢者世帯の総合相談	地域包括支援センター ℡(25)7881
り災証明書の発行(船舶)	水産課 ℡(24)8936	生活福祉資金の貸し付け	社会福祉協議会 ℡(24)8189
義援金の受け付け	社会福祉課 ℡(24)8195	水産業者への金融支援など	水産課 ℡(24)8936
災害ごみ・がれき類などの処分	生活環境課 ℡(24)8910	中小企業への金融支援など	観光商工課 ℡(24)8932

救急車の適正利用にご協力を

このたびの震災に伴う被災地域の支援のため、消防本部の救急隊が福島県に派遣されており、現在は市内の救急車が1台少ない状態です。

救急車を呼ぶ際に「救急車が必要な傷病なのか」また「自家用車や介護タクシーなどで病院へ行けないか」など、今一度考えてください。救急車の適正利用について、市民の皆さまのご協力をお願いします。

問合せ 消防本部 ℡(22)0119

高齢者総合相談窓口

地域包括支援センター（高齢者福祉課）では、次の項目などの相談を受け付けています。

- 高齢者世帯で、災害により住家が被災され、在宅生活が困難になった方
- 高齢者世帯で、在宅生活への不安から「ひとり暮らし高齢者見守り支援事業」による安否確認を希望する方

問合せ 地域包括支援センター ℡(25)7881

◆次の施設は、電力の需給状況が改善されるまで、当分の間、夜間利用を制限させていただいております。ご理解とご協力をお願いします。

施設名	問合せ
勤労コミュニティセンター	観光商工課 ℡(24)8932
各小・中学校(学校開放)	学校教育課 ℡(24)8197
市民センター	市民センター ℡(22)0340
各地区コミュニティセンター	
青少年文化会館	青少年文化会館 ℡(22)3315
公正図書館	公正図書館 ℡(25)3069
市体育館	市体育館 ℡(24)9559
スポーツコミュニティセンター	

◆道路照明灯は、節電のため一部消灯しています。通行には十分ご注意ください。

4 市民の避難行動

4.1 住民避難行動

震災後に行ったアンケート調査やヒアリング調査により、住民の避難行動を調べたところ、近くの避難所まで徒歩で避難したり、遠方の高台まで車で避難していることがわかりました。一方で、「まさか津波は来ないだろう」と判断し、津波浸水区域内であっても自宅から避難しない人（自宅待機）も多くいることがわかりました。

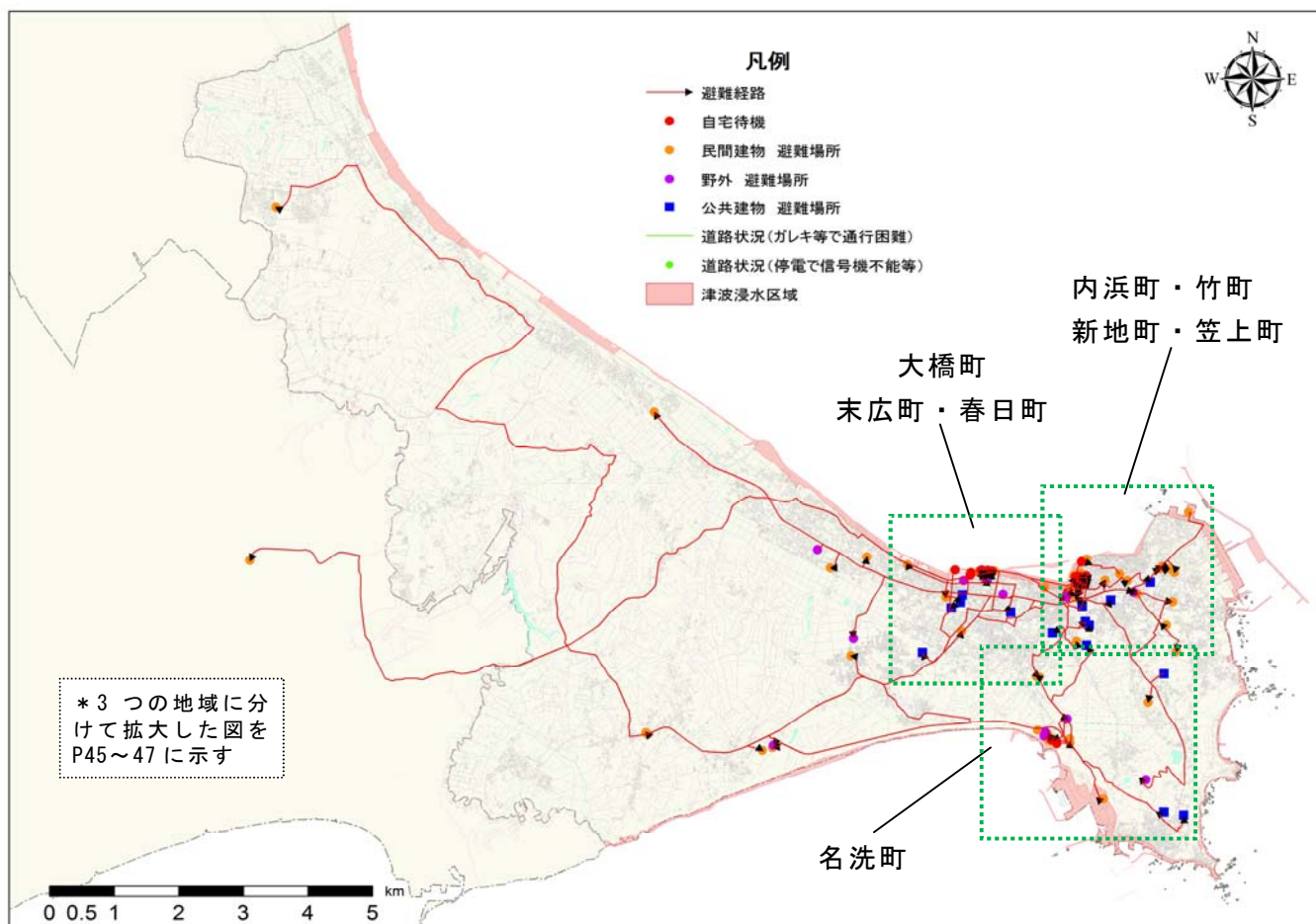


図-4.1 住民避難行動（全体図）

（「東日本大震災による被害現況調査業務（千葉）、国土交通省」の資料に銚子市データを追加して図を作成）

<大橋町・末広町・春日町等の利根川沿いの住民>

● 避難場所と避難経路

- ・ 大橋町の住民は、近くの若宮小学校、第四中学校、双葉小学校、唐子町公園、市役所、市立銚子高校、第四保育所等へ避難していました。
- ・ 末広町の住民は、最寄りの双葉小学校等へ避難していました。
- ・ 春日町は津波による浸水はありませんでしたが、住民は近くの市立銚子高校や県立銚子商業高校に避難していました。

● 主な避難行動の状況

- ・ 大橋町や末広町の住民は徒歩で近くの学校に避難する人が多くいました。
- ・ 市立銚子高校へ避難した住民の多くは車で避難していました。
- ・ 銚子駅から西側は停電していたため、信号機が作動していませんでしたが、交通に支障はきたしていなかったようです。
- ・ 避難せずに自宅に残る住民もいました。

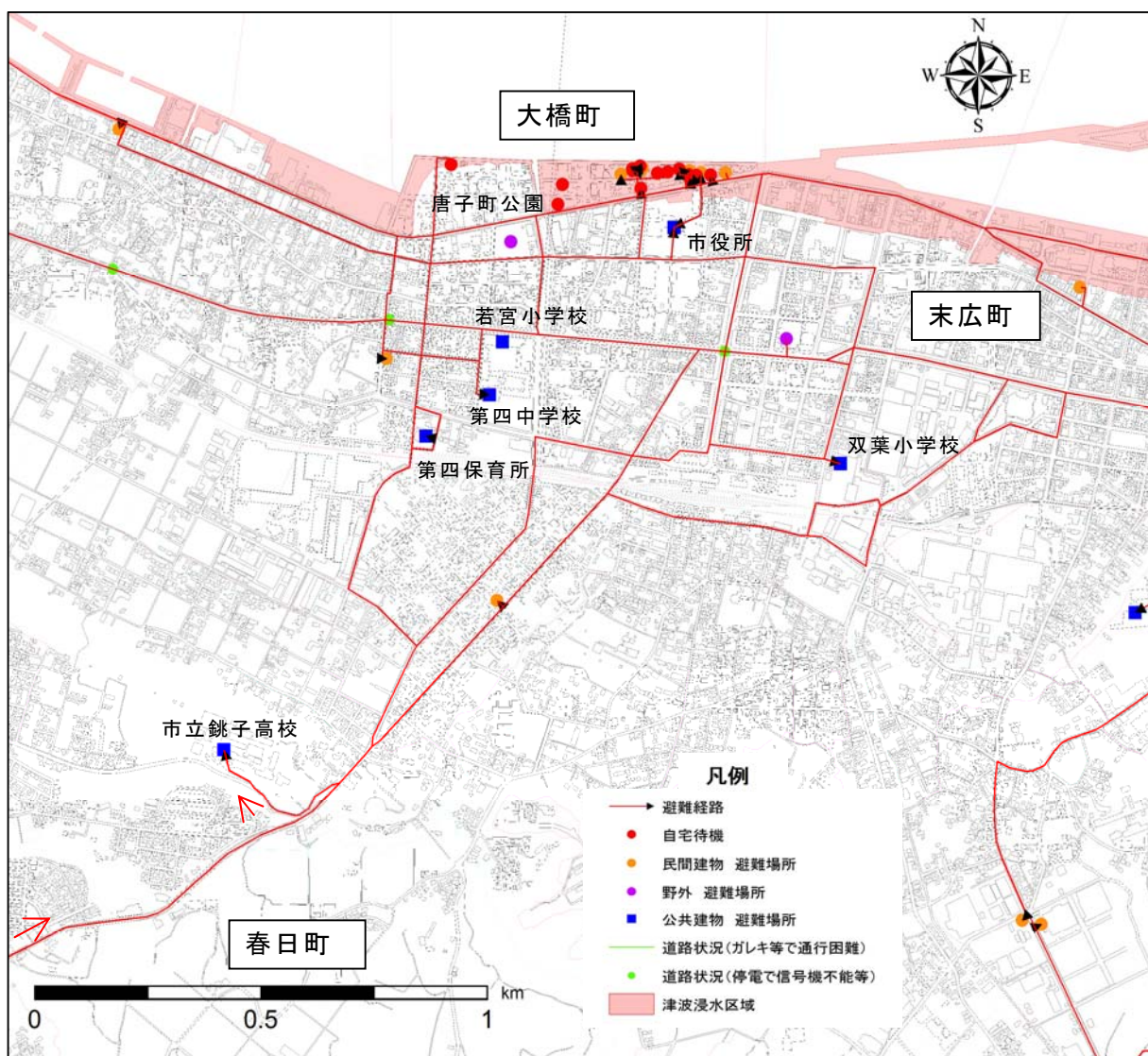


図-4.2 住民避難行動（大橋町・末広町・春日町等）

（「東日本大震災による被害現況調査業務（千葉）、国土交通省」の資料に銚子市データを追加して図を作成）

<内浜町・竹町・新地町・川口町等の沿岸の住民>

● 避難場所と避難経路

- ・ 新地町では地盤沈下による浸水拡大がありました。
- ・ 内浜町南の住民は、清水小学校、銚子市青少年文化会館へ避難していました。
- ・ 竹町西の住民は、清水小学校、銚子市体育館へ避難していました。
- ・ 新地町の住民は、銚子市体育館、第三中学校、飯沼観音の境内、市立銚子高校等へ避難していました。
- ・ 内浜町の住民は、高所を目指して、市民センター、銚子市体育館、銚子市青少年文化会館、清水小学校等へ避難していました。
- ・ 川口町の住民は、高台を目指し、途中のスーパーや明神小学校に避難していました。

● 主な避難行動の状況

- ・ 内浜町、新地町、竹町の住民は、揺れが収まった後、外で状況を確認し、徒歩または車で避難していました。川口町では車で高台まで避難する人が多かったようです。
- ・ 避難せずに自宅に残る住民もいました。

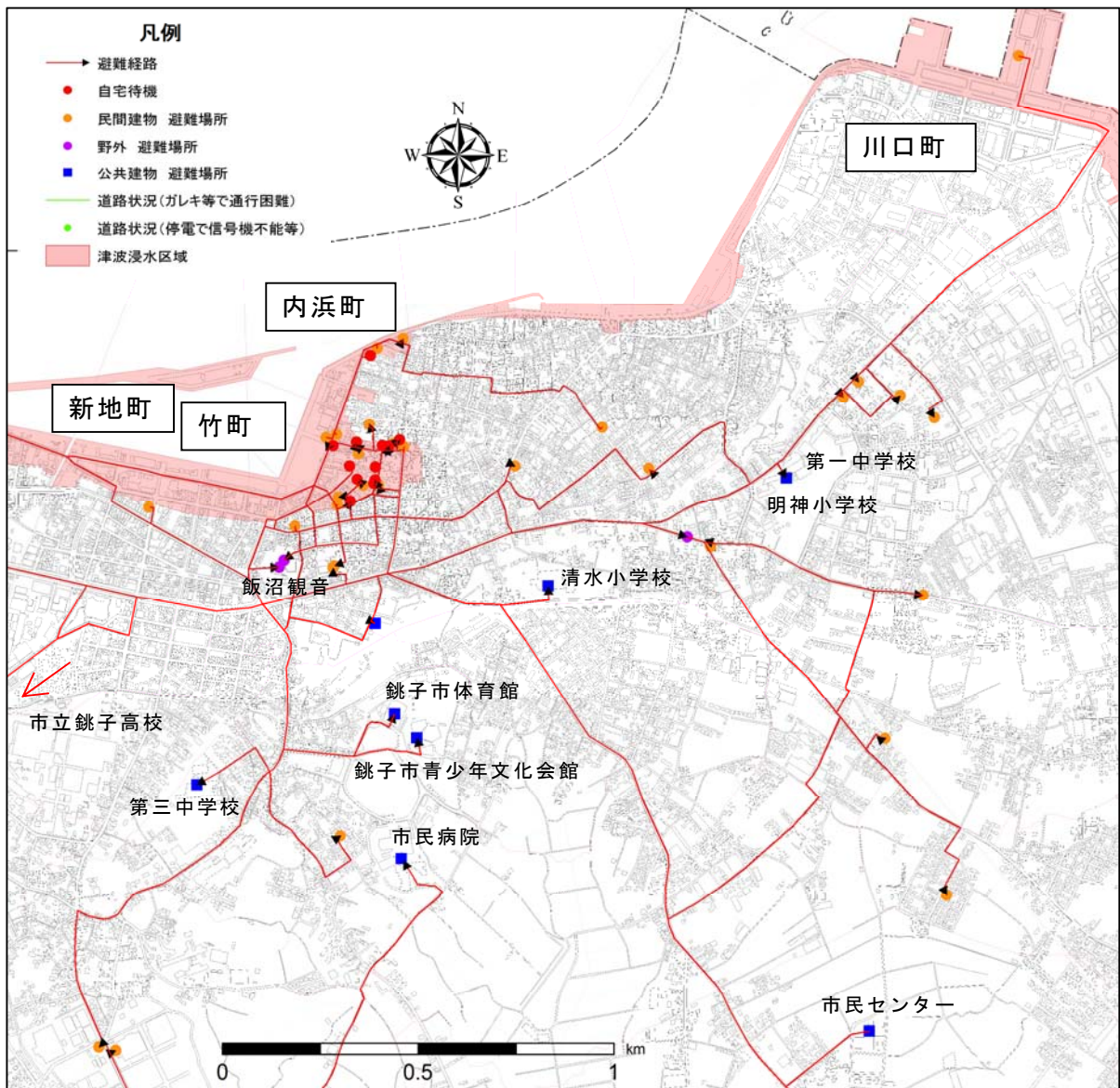


図-4.3 住民避難行動（内浜町・竹町・新地町・川口町等）

（「東日本大震災による被害現況調査業務（千葉）、国土交通省」の資料に銚子市データを追加して図を作成）

<名洗町等の海岸沿いの住民>

● 避難場所と避難経路

- ・ 名洗町の住民は、近くの高台にある不動明王不動尊や周辺の土手等に避難していました。遠方へ避難した人は高神小学校、第二中学校、イオン、市民病院、銚子市体育館、地球の丸く見える丘公園等に避難していました。
- ・ 小畑川よりも西側の避難経路では地震によりブロック塀の崩れで通行が困難な箇所がありました。

● 主な避難行動の状況

- ・ 名洗町の住民は、徒歩で近くの高台まで避難していました。また、遠方に向かった住民は車で避難していました。
- ・ 地球の丸く見える丘公園には千葉科学大学の職員学生や加工会社社員が多く避難しました。誘導や避難の指示は消防団員が行いました。
- ・ 高台に一時避難した後、野外は寒いため自宅に戻った住民が多数いました。
- ・ 避難せずに自宅に残る住民がいました。

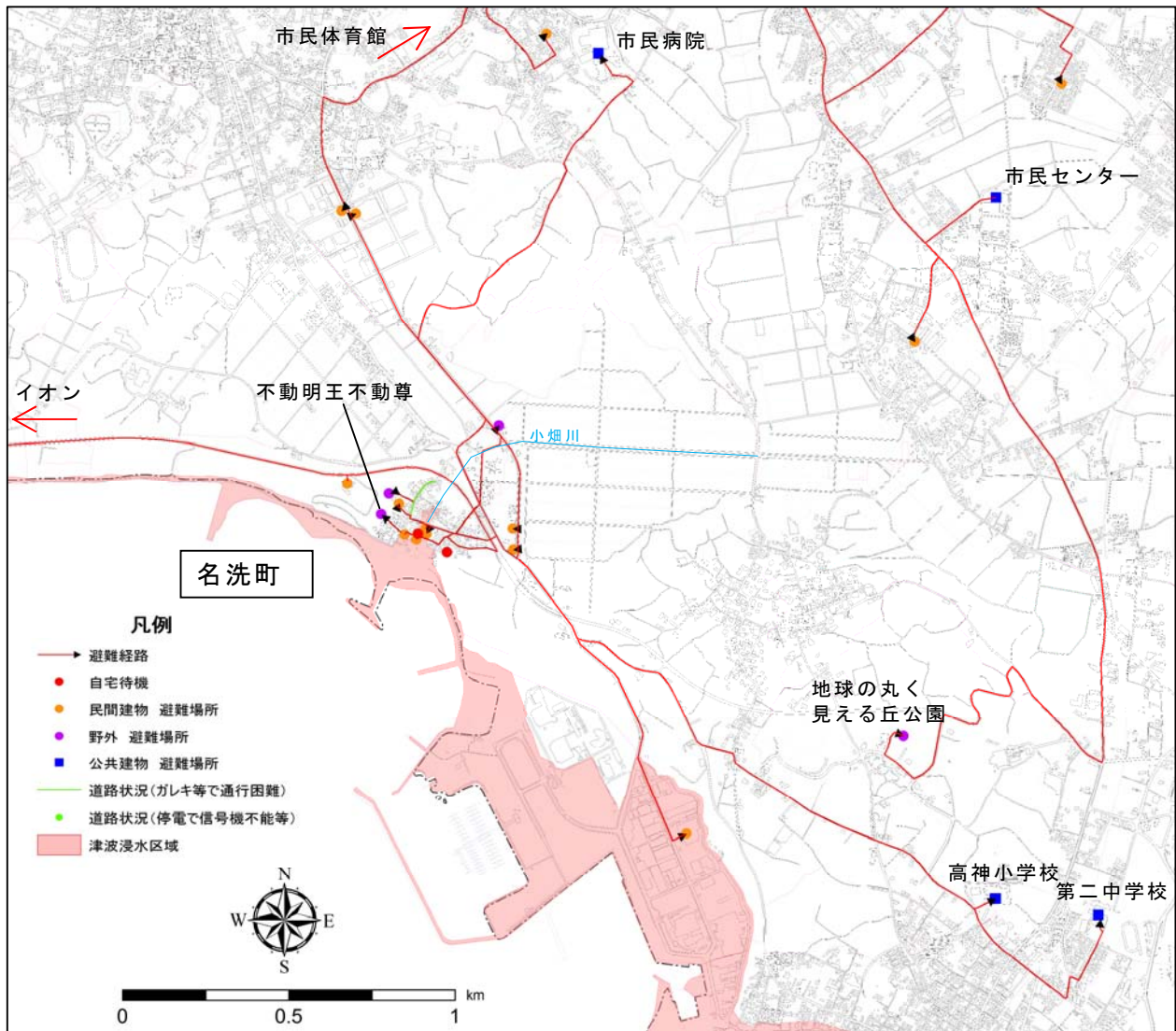


図-4.4 住民避難行動（名洗町等）

（「東日本大震災による被害現況調査業務（千葉）、国土交通省」の資料に銚子市データを追加して図を作成）

4.2 事業所避難行動

事業所（観光施設も含む）の避難行動を調べたところ、車で高台や自宅まで避難・帰宅している方が多くいました。また、大型商業施設は、一時的な避難場所として機能していました。

表-4.1 事業所の避難行動等の状況

事業所の所在地	避難場所	移動手段	主な避難行動の状況
川口町（観光施設）	近くの高台・自宅	車	事業所→ポートタワー駐車場→スーパー駐車場→事業所→スーパー駐車場→自宅
川口町（漁業施設）	近くの高台・自宅	車	事業所→ポートタワー駐車場→自宅
潮見町（教育施設）	近くの高台・学校・自宅	車	事業所→地球の丸く見える丘公園→高神小学校→第二中学校→自宅
新生町（商業施設）	自宅	車	事業所→自宅
三崎町（大型商業施設）	事業所（避難場所として一時的に開設）	車・徒歩	事業所→自宅

<特記事項>

- ・観光施設では、利用客約30人に館内放送で高台へ避難をうながし施設外に避難しました。
- ・避難・移動中に停電による信号機停止や、地震による壁等の崩落等により通行ができない箇所がありました。渋滞や混乱はありませんでした。
- ・南部の元有料道路には、津波を携帯カメラで撮影しようとする人が路肩に車を駐車していましたが、渋滞するようなことはありませんでした。
- ・三崎町の大型商業施設（ショッピングセンター）では店舗内に1,600人ほどの来客者がいました。利用客による避難待機後、夕方には帰宅し混乱はありませんでした。また、遠方から車で避難者には駐車場や施設を一時的に開放しました。
- ・上記の大型商業施設では、銚子市との防災活動協力に関する協定により、震災当日の夜と翌日を中心に最大時2,000～3,000人分の飲料水、食糧、毛布等の供給をしました。

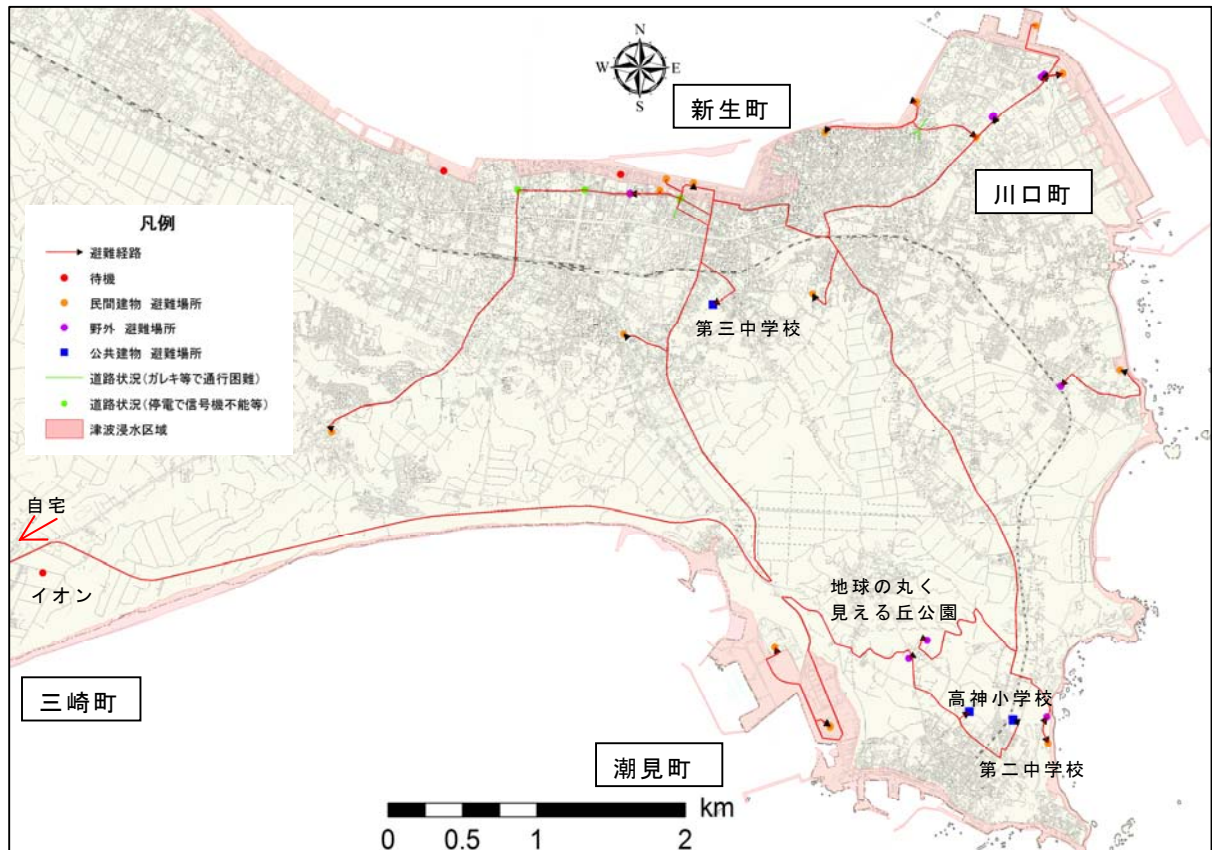


図-4.5 事業所の避難行動

（「東日本大震災による被害現況調査業務（千葉）、国土交通省」の資料に銚子市データを追加して図を作成）

4.3 公共施設避難行動

公共施設（福祉施設も含む）の避難行動を調べたところ、津波の被害が大きかった銚子マリーナでは、津波が来る前に避難行動が完了し利用者も職員も無事でした。また、公共施設で開設した避難所には住民が多数避難しました。

表-4.2 公共施設における避難者の対応や避難行動等

公共施設	所在地	避難所開設	避難場所	移動手段	避難者の対応や避難行動等
銚子マリーナ	潮見町	無	近くの高台・自宅	車	・利用者3~4組に対して施設内の放送で避難勧告し帰宅 ・職員約10人は利用者対応後、高台へ避難 ・事務所→地球の丸く見える丘公園→自宅
銚子市体育館	前宿町	有	銚子市体育館 (青少年文化会館)	車・徒歩	・利用者10人は館内で一時待機後に各自帰宅 ・避難者約130人(3月11日)の対応、その後青少年文化会館へ避難者を誘導(職員4人)
青少年文化会館	前宿町	有	青少年文化会館	車・徒歩	・利用者45人は各自帰宅 ・避難者約500人(3月11日)の対応、その後他の施設からの避難者の受け入れ(職員8人、3月14日までの避難者は延べ約1,100人)
市民センター	小畑新町	無	自宅等	車	・利用者50人に対して一時中庭に避難誘導、その後各自帰宅(職員7人) ・利用者と職員避難後に臨時休館
公正図書館	新生町	無	自宅等	車・徒歩	・利用者30人に対して2回目の大きな地震後に帰宅指示(職員4人)、職員も利用者対応後帰宅
清水小学校	清水町	有	清水小学校の 校舎特別棟 (青少年文化会館)	車・徒歩	・避難者約600人(3月11日)の対応、3月13日に文化会館へ避難者を誘導(教職員約13人と市職員約5人、3月13日までの避難者は延べ約1,300人) ・一晩学校で避難待機した生徒は無し ・3月13日には残った避難者を青少年文化会館へ誘導(職員4人)
第二中学校	犬吠埼	有	第二中学校の 体育館	車・徒歩	・避難者約200人(3月11日)の対応、高神小学校からの避難者の受け入れ(教職員と市職員2人、3月12日までの避難者は延べ約400人) ・一晩学校で避難待機した生徒は無し
銚子市立銚子高校	春日町	有	市立銚子高校の 体育館、春台会館、保健室	車・徒歩	・生徒約80人の避難誘導 ・避難者約300人(3月11日)の対応、(教職員30人と市職員、3月13日までの避難者は延べ約800人) ・一晩学校で避難待機した生徒は保健室に宿泊
銚子市 特別養護老人ホーム 外川園	外川町	無	外川園	無	・利用者108人と職員57人は一時、施設の中庭に避難したが、その後施設に戻る
千葉県 救護官老人施設 猿田荘	猿田町	無	猿田荘	無	・利用者100人と職員39人は避難行動について特になし

<特記事項>
 ・銚子マリーナでは津波により事務所、港、船舶に大きな被害がでしたが、利用者や職員は無事に高台等に避難し負傷者はいませんでした。
 ・地域住民による助け合いや学校の生徒・若人の協力でもとも助かった避難所がありました。
 ・市役所の停電と電話不通の影響で、避難所と対策本部との間で連絡が一時困難な避難所がありました。しかし、見回りの消防団との情報交換や連携がとれ、避難者の対応ができた避難所がありました。
 ・救援物資(水、食糧、毛布等)が無かったり、不足する避難所がありました。また、避難者増加における対応、誘導、連携に不安のあった避難所もありました。
 ・避難者の車の誘導やペットの管理で大変であった避難所がありました。
 ・福祉施設については施設外での避難行動は特になしでした。

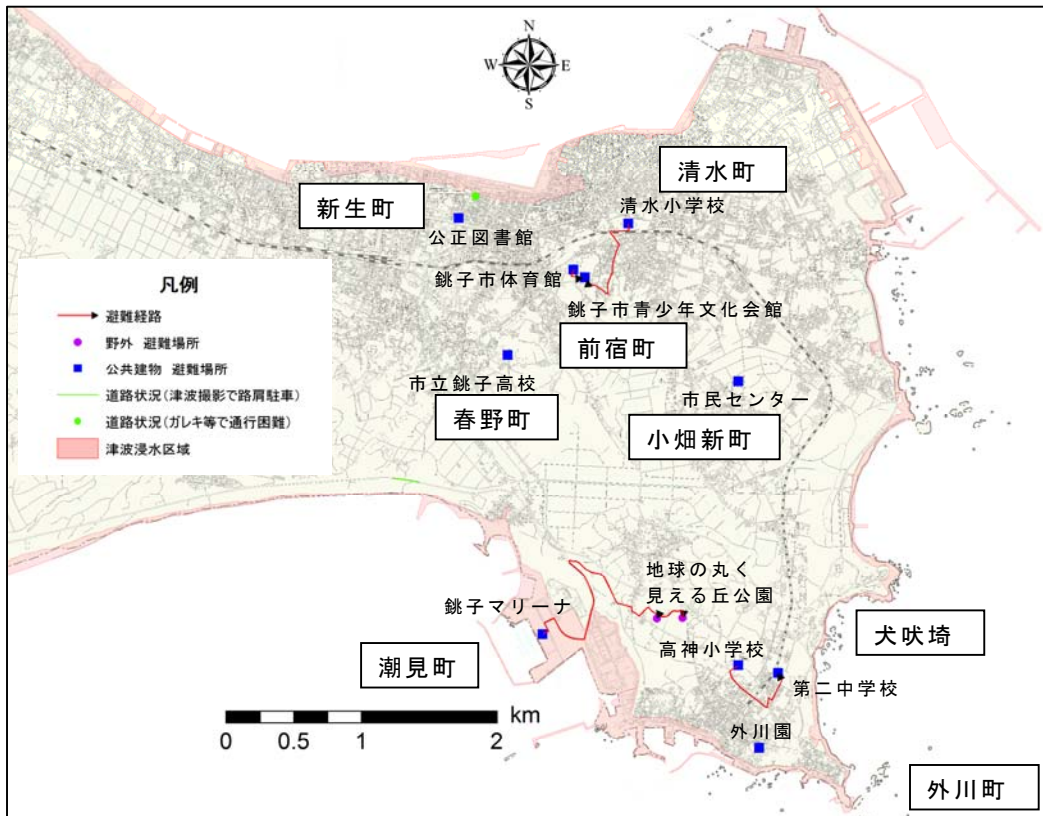


図-4.6 公共施設の避難行動

4.4 公共交通機関避難行動

公共交通機関の避難行動を調べたところ、避難誘導による大きな混乱はありませんでした。ただし、事業社の社員は利用者や運行管理等の対応により避難はしていませんでした。

表-4.3 公共交通機関の避難誘導や利用者等の対応

公共交通機関	事務所の所在地	主な避難誘導の状況	避難者や利用者への対応等
東日本旅客鉄道 銚子駅	西芝町	<ul style="list-style-type: none"> 社内規定の避難誘導マニュアルに基づき駅利用者約100人を駅構外へ避難誘導 運行列車(1本)は地震直後に緊急停止し、乗務員と社員3人を派遣し約50人の乗客を駅構外へ避難誘導 最寄りの避難所である双葉小学校まで社員2人で駅利用者約60人を避難誘導 利用者に負傷者はなく市内の鉄道設備等も被害なし 	<ul style="list-style-type: none"> 銚子駅は停電しなかったため待合室とトイレを開放(一時的な避難場所として機能) 避難者は待合室のテレビから情報収集 駅周辺には利用者等を含め約200~300人の避難者が存在 体の不自由な方や高齢の方を対応するのに車イスが不足 震災後の計画停電における運休情報を防災無線で周知できたので駅での混乱なし
銚子電気鉄道	新生町	<ul style="list-style-type: none"> 地震後無線により全列車の停止と抑止指示を発令 運行列車(2本)は駅に停車中であり、上り車輛に約10人、下り車輛に約15人の乗客がいたが乗務員によって無事を確認 社員を派遣し利用客を車で避難誘導 利用者に負傷者はなく市内の鉄道設備等も被害なし 	<ul style="list-style-type: none"> テレビにて大津波警報情報を入力し、列車運転の中止を決定 小型の移動無線や公衆電話を通信手段として利用 社員を派遣し利用客を最寄りの駅、目的の駅、または行き先付近まで車で避難誘導 回送列車留置保安要員として1人を配置、また事務所内には必ず1人を配置する体制 運休や間引き運転については職員告知、駅のビラ貼り、災害用自販機にてテロップの表示を実施 路線上の安全を確認の上で3月12日午後から運行を再開
千葉交通 銚子営業所	松本町	<ul style="list-style-type: none"> 地震後、乗務員はバスを路肩に寄せて一時停車 海岸付近を走行している市内路線バスの乗務員には津波の危険があるため、最優先で各自の携帯電話に連絡をして車庫へ戻る、あるいは安全な高台へ避難するよう指示 連絡の取れなかった市内路線バスの乗務員については銚子駅にスタッフを配置させ車庫へ戻るよう指示 車庫から出発前の乗務員には待機の指示 バス利用者には最寄り、行き先、乗車したバス亭等で降りて避難・帰宅 全車両との電話連絡までには至らず、なかなか営業所からも乗務員からも連絡するのが困難な状況 市内路線・高速バスの利用者に負傷者はなく市内の車庫や車両設備等も被害なし 	<ul style="list-style-type: none"> バス利用者に対しては最寄り、行き先、乗車したバス亭等で降りて避難・帰宅 高速バスでは乗客の希望で1台が交通の便が良い成田駅まで運行し銚子へ帰庫 連絡がとるのが難しかった高速バスでは全て一般道路を利用し途中コンビニエンスストアで臨時停車を行って、利用客の食料や飲料水の確保に努めながら運行 電車が全線ストップしていたので、東京で待機中だったバスに帰宅困難者を乗せて東京から千葉駅に臨時便を運行した 事務所では社員2人が避難せず、運行状況の把握や乗務員の指示を実施 市内路線・高速バスは翌日早朝から全車運休することを決定し、各バス停に告知ビラ貼りの措置を実施 3月13日以降は路線の安全を確認した上で通常運行

<特記事項>
 ・公共交通機関の利用者、乗務員、施設及び事務所での負傷者や被害はありませんでした。また、利用者における混乱もありませんでした。
 ・交通機関による利用客の避難誘導は比較的スムーズに実施していました。
 ・待合室とトイレの開放を実施した銚子駅は避難所として機能していました。
 ・停電と電話不通の影響で、乗務員と事務所の間で連絡が一時的困難となる交通機関がありました。
 ・体の不自由な方や高齢の方を対応するのに車イスが不足することがありました。

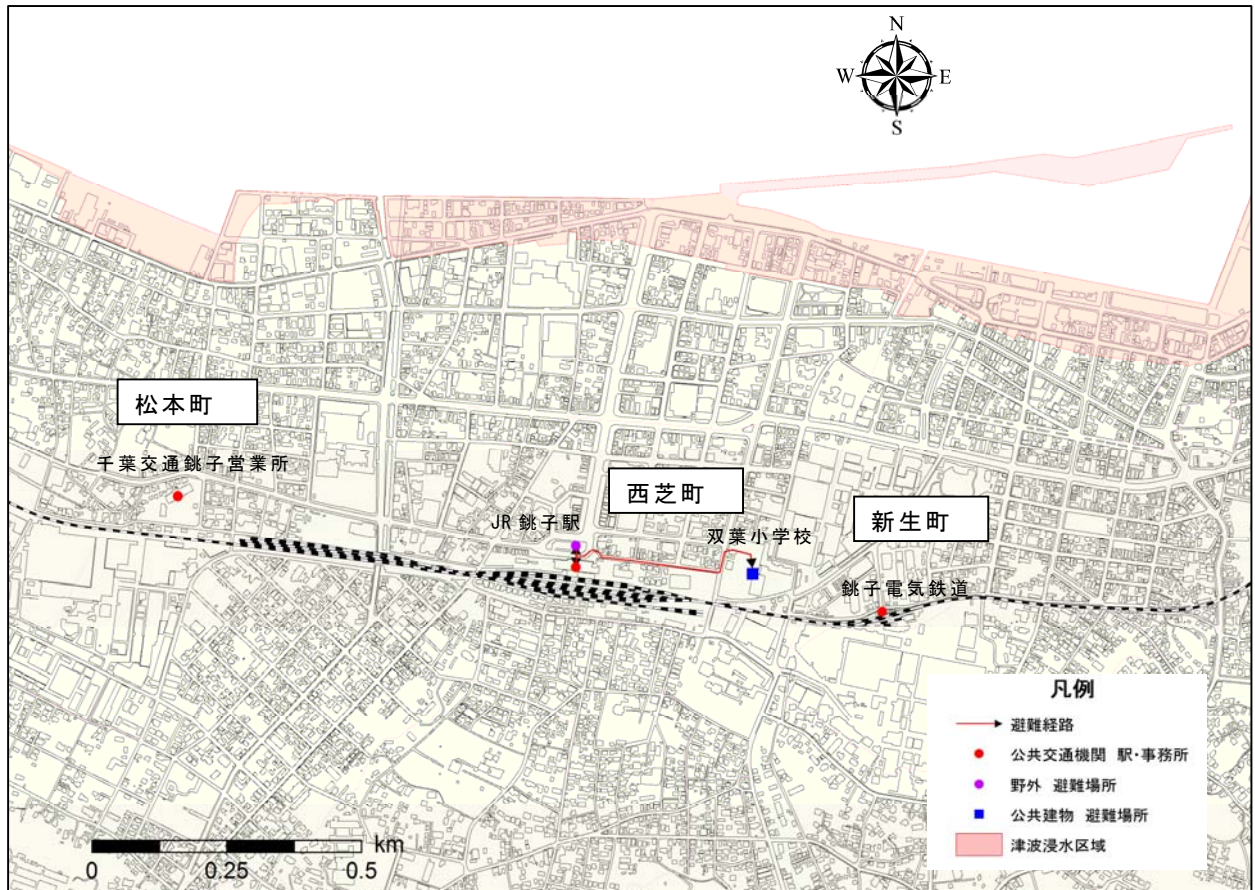


図-4.7 公共交通機関の避難行動

4.5 体験談

住民の体験談ヒアリング①

住民（大橋町地区：会長及び副会長）

○ 地震と津波の体験及び被害状況など

<地震発生 2011年3月11日 14:46～>

【会長】

私の家は3階建てで、地震当時はその3階にいました。家は鉄骨のためか、揺れはそれほどではなかったので、揺れがおさまってから庭に出て、自宅の被害状況を確認しました。家の東側と西側の壁が落ちてしまいました。鉄骨の壁は中がしっかりしていますが、外側が簡単につくりなので、家の前方に落ちてしまいました。

防災無線で避難について聞きましたが、大橋町内の被害が心配だったので、避難場所には行きませんでした。東京にいる子供から「逃げた方がよい」と連絡がありましたが、逃げずに自宅にいました。地震後に、人が何人か来たり電話が掛ってきたりして、今後の対応等について話していました。

夕方になり町内を一廻りして、町内の被災状況および青年館の被害状況を確認していました。道路にヒビが入っていた所がありました。また、浸水したエリアには、30～40cmくらいのボラが大量に打ち上げられていました。銚子大橋は市立銚子高校へ向かう車でいっぱいになっていました。自宅近くの唐子町公園に避難している人を見かけましたが、人数はそれほどいませんでした。唐子町公園だと低いので津波が来た場合は危ないかもしれません。最寄りの若宮小学校に避難している人もいました。各自ばらばらに避難場所に行っていたようです。双葉小学校や市役所に避難した人もいたようです。

津波ハザードマップは市の方から来ていましたので、一応見たことがあります。しかし、あることを知っている程度でした。何年か前に見たきりで、自分の住んでいるところが浸水区域かどうか記憶にありませんでした。

【副会長】

地震が起きた時、私は本城町の利根川沿いにある工場にいました。休憩時間まであとわずかの時間で、工場の玄関あたりにいた時に地震を感じました。工場は鉄骨なので大丈夫だろうと思っていました。地震がおさまった後、たいした被害は無かったですが、今度は津波が来るのではないかと話していました。しかし、津波が来たとしても大丈夫だろうと気楽な感じでした。その時、本城町の客人が訪問してきて、「水が2mくらいないよ、本城ドック内の潮が引いて川底の砂が見えていたよ」と津波の情報を教えてくれました。これは津波が来るぞ、と少し本気になってきまして、急ぎよ工場内の道具を片付けはじめました。低いところにある知人の所有物も預かっていましたので、工場の2階へ片付けました。

それから20分後くらい後に本当に津波が来てしまいました。全部で3回くらい津波が来ました。工場の1階が津波により浸水したのを確認しました。工場の周りには堤防がないところがありましたので、水が入ってきて壊れてしまったものもありました。まさかここまで津波が来るとは思いもしませんでした。防災無線も聞こえていたと思いますが、確認のためテレビをつけてみました。それでも当時はピンとはきていませんでした。

1回目の津波はたいしたことはなく、周りを見廻る余裕がありました。そのうち、「また来るぞ」ということになり、逃げられなくなるとまずいと思い工場内を全部開けておきました。2回目の津波で水が入ってきて引き戸が壊れてしまいました。工場には工員が1人いましたが「車で逃げろ」と言い避難させました。私の家族からは「逃げろ」という電話

を受けましたが、私は工場を守るため避難しませんでした。流されてしまった物を拾いにも行きました。

17:20くらいに工場の浸水がはじまり、約1mの浸水となりました。いよいよ浸水が高くなり始めたので、2階へ移動して周りの様子を見たり、その時の状況を携帯で写真撮影していました。2回目か3回目かの津波の時に、利根川を津波が遡上する様子を目撃しました。津波は利根川を逆流し「ゴォーゴォー」という音を立てていました。鼠色から黒っぽい色をしており、小さい波が後ろから次々に重なって階段状に見えていました。遠目で2~3mの高さがあったと思います。津波の浸水が見られなくなってから、工場の出入口の引き戸が壊れてしまったので応急の戸締り対策をしていました。既に辺りは暗くなり停電していましたので、懐中電灯を照らしながらの作業でした。その後、自宅へ戻りました。

一応、市の方から津波ハザードマップが来ていましたので見たことがありましたが、まさかこんなに大きな津波が来るとは考えもしませんでした。

なお、後で聞いた話しでは、港にあった船の多くは沖に避難して逃げていたそうです。避難できずに津波に巻かれていた船もあり、ドック内に置いていた船も壊れてしまったものがありました。また、地球の丸く見える丘の付近で津波を見ていた人の話しによると、津波は銚子沖で二手に分かれて進んでいるように見えていたそうです。一方は波崎へ向かい利根川に入って来た波、もう一方は銚子沖を真っすぐに進んでいく波だったようです。

○ 今回の地震をふまえて

【会長】

町内会の課題としては、指揮系統がはっきりせず、何の権限もないので、避難場所への避難基準や備蓄材の更新などに手がつけられませんでした。備蓄用の水に消費期限切れのものもあったのですが、誰が管理しているのか分かりませんでした。また、避難場所に指定されている小中学校についても食料や水の備蓄が全くなかったところもあったと聞いています。

元教職員としての立場から言わせてもらいますと、避難所となる学校側は、地元住民でない者を、教育現場にむやみに入れたがらないと思います。学校教育の再開が遅れてしまうこともあります。また以前は宿直する担当者がいましたが、現在は夜間不在であるために、緊急時の立ち入りの際に施錠等を解除できず、避難できないという問題があります。やはり事前の避難計画については、しっかりとした体制をつくってほしいです。

【副会長】

大橋町の一部には、本通り公園付近等、川沿いに堤防がない箇所があります。今回の津波による浸水もその辺りから水が来ましたので、なんとかならないか検討してほしいです。また、利根川沿いの堤防の一部に地盤が下がっているところがあります。この辺りは埋め立て地ということもあり、昔から地盤が悪いところでもあります。堤防の下の方が浸食された感じになっていると思います。その箇所は一度堤防を上げる工事をしてますが、どうもうまくいっていないようです。今回の地震により堤防裏の目地に隙間が生じて離れてしまった箇所があります。二度目の工事は難しいかもしれませんが、堤防の隙間を埋めるなどの対応についても必要ではないかと考えています。ちなみに、今回の地震による液状化現象によりマンホールが上がってしまった箇所も堤防近くにいくつか見られました。

○ 過去の地震や津波について

【会長】

潮見町には、延宝地震による津波の想定高を示す三角形の黄色い看板が立っています。過去の地震によって市内には大きな津波が到達しています。昔の文献資料等を取り込んで整理した方がよいですね。私の方から後日、銚子における過去の大きな地震・津波の記録を書いて送ります（以下参照）。

君ヶ浜の辺りは、ポツンと家屋がある程度で、家がほとんどありません。300年ほど前に発生した津波により、家が流されてしまった場所であると言われ、その土地には塩分濃度の高い所もあります。その時の教訓から、現在もこの辺りに家を建てていないことが窺えます。その時の津波はとて大きくて、君ヶ浜から小畑町を通って名洗町に抜けたとの言い伝えもあるほどなのです。

なお、昔の人の知恵として避難場所をお寺にしていました。そのわけは、お寺には食料を備蓄できる蔵や井戸がありましたし、お箸やお茶碗も置いてありました。トイレもお寺にはあります。一方で、神社には普通、お寺のようなものはありません。ただし、神社に社務所があれば別です。お寺にある墓石も、ただの石ではありません。墓石は万が一の時に積み上げれば擁壁替わりになるので、同年代の墓石の大きさは同じ高さに統一してあります。市内の普通のお寺に行きますと、江戸時代の墓石はやはり同じ高さになっています。なお、お寺は一箇所からしか入れませんが、神社に関してはどこからでも入れます。そのようなこともあり、お寺は一つの地域社会としての集まりの場、避難する場として活用されていました。これは昔の人たちの知恵であり、現代も取り込んでみるのもよいのではと考えています。

< コラム 1：銚子市における過去の大きな地震・津波記録 >

- ①1605年（慶長8年） 慶長地震 津浪が犬吠埼に来襲,各地に被害あり
- ②1614年（慶長19年） 津浪入る 浜通りは飯沼観音境内後門に潮水侵入する
- ③1617年（元和3年） 津波銚子市飯沼へ強く上がりたる
- ④1677年（延宝5年） 延宝地震 高神村大池（現在の小畑池）まで浪上る
外川浦にて漁舟は沖へ引出され破舟多数
- ⑤1703年（元禄16年） 元禄地震 外川にて船少し損,飯岡は夥しく浪上げ
津浪が犬吠埼を襲う
- ⑥1854年（安政元年） 安政東海地震 沿岸を襲った津波によって被害甚大
- ⑦1923年（大正12年） 関東大震災 津浪襲来を恐れ植松・通町住民は台地に避難
- ⑧1960年（昭和35年） チリ津波 津波の最高は銚子 153 cm

※参考文献

- ・大橋町会長：提供資料（2012年1月28日直筆）
- ・田中繁貞：玄蕃 先代集 乾巻（関根昌吾(2007年9月)）
- ・田中庸貞：玄蕃 後代集 坤巻（関根昌吾(2007年9月)）
- ・銚子市：銚子市史IV 昭和から平成へ（2004年3月31日）

住民の体験談ヒアリング②

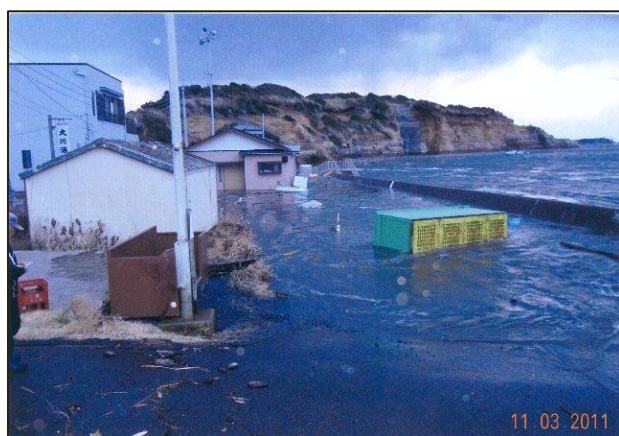
住民（名洗町地区：会長及び住民3人等）

○ 地震と津波の体験、避難及び被害状況など

<地震発生 2011年3月11日 14:46～>

【会長】

最初の地震はすごく揺れました。余震も多く続いていました。地震後、市役所の防災無線が頻繁に聞こえていました。津波の第一波が来るというので、みんな一旦はそれぞれ近くの高い所へ避難し、その後は自宅に戻った人が多かったです。まさか大きな津波は来ないだろう、とのことだと思います。私の家は崖の上の比較的高い場所にあります。地震後は町内の被害や津波が気になっていましたので、町内を見回ったり、津波の状況を高い所から監視していました。名洗町の海岸には津波により銚子マリーナのヨット等の船が打ち上げられてしまいました。町の中にも船やコンテナが津波によって川から入って来ました。また、近隣の外川漁港では、港に置いてあった船のほとんどが津波でやられてしまったことを聞きました。ただし、沖出しした船については助かったとのこと。



3月11日 津波によりコンテナが流出
（名洗青年館付近：名洗町の住人提供）



3月11日 津波により町内に船が流入
（名洗町の住人提供）

【住民の皆さん（女性2人・男性1人）】

（女性1）

私の場合は、しばらく揺れていたもので、地震の様子をうかがっていました。その後15時過ぎに車で銚子市立病院まで避難しました。

（女性2）

私は、地震の揺れが大きくて危ないと思ったので、すぐに庭へ出ました。地震後に津波が来るとは想像もしていませんでした。古い家屋に住む人の場合は、建物が危ないと感じ、一度外に避難していたと思います。地震発生後、地震のことばかりが頭にあって、割れやすい瀬戸物を床下に置いていたら、津波が来て全部流されてしまった方もいました。停電は地震後に1回あった程度で、その後は意外にも電気や水道は大丈夫でした。

（男性）

津波の第一波はたいしたことはなかったです。ところが、そのうち第二波が来て3段くらいになった波が飯岡方面を目指して押し寄せるのが見えました。第二波が最も大きかったように思います。また、10mの津波が来るというテレビの情報もありましたので、このまま家にいたら津波にのまれるかもしれないと思い逃げました。集落で高い所にお不動様がありましたので、そこまで歩いて避難しました。お不動様まで行ってみると、お年寄り

が既に疲れた様子で座ってしまっていて、そこに20人弱は避難していました。また、お不動様よりも少し北側の高台になっている土手にも避難していた人がいました。時間は15時過ぎで、二発目の大きな地震の後に避難する人が多かったです。その日はお天気が良かったので避難しやすかったのですが、地割れが起きていた道路もありました。避難した後は、寒くなってきたので、家に戻りテレビを見て東北地方の津波がすごいことになっている状況を知りました。

(女性2)

私が聞いた話しでは、第二中学校、高神小学校、イオン、高台にあるモーテルへ避難した人がいました。この名洗町から歩いて高神小学校まで避難するというのは至難の業でして、車を使わないとそこまで避難することが難しいです。もし、車があって直ぐに逃げられる状態であったなら、私もそうしていたかもしれません。なお、高神小学校へ避難した人の話しでは建物が地震で怖かったそうです。外国人の方も、高神小学校よりも最近工事が終わったばかりの第二中学校の方が良いというので、第二中学校に向かったそうです。

(男性)

その後の生活を考えると、やはり車が無くなってしまったら、何もできずに困ってしまうと思います。そのため、車と共に避難したいということもあります。名洗町の場合は、車で高い所にある元有料道路を歩いてイオンに逃げた方が良かったと思います。

(女性2)

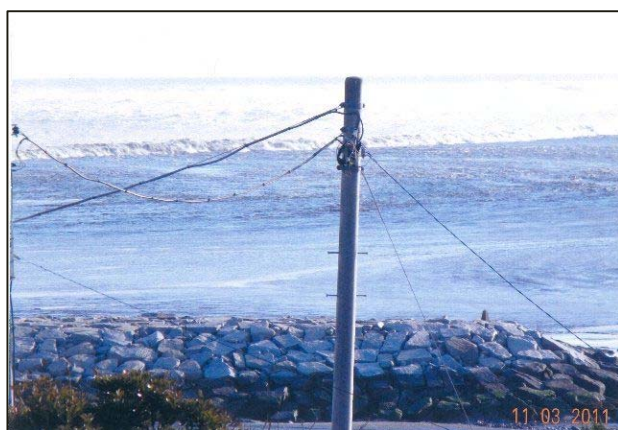
しかし、その道路には西松屋前の高松池にかかる橋があります。地震の時はとても怖く感じたので、わざわざ橋を避けて避難していた人もいたと聞きました。また、高神小では避難した車がいっぱいになって、困ったという話しも聞いています。

(男性)

ハザードマップについては知っていましたが、津波や洪水といった災害ごとにあるとは知りませんでした。このマップは地盤が緩いとかそういうものかと思っていました。

(女性2)

以前からハザードマップがあるし、今回の津波の浸水や昔の津波の話しから、今後は津波からの避難を真剣に考えておかないといけないと思いました。



3月11日 名洗町沖における津波状況
(名洗町の住人提供)



3月11日 津波による町内の浸水状況
(名洗町の住人提供)

○ 今回の地震をふまえて

【会長及び住民の皆さん等】

今回のように大きな津波から素早く避難するのはとても難しいことですが、とにかくす

ぐに高台へ避難して待機することが最も重要な課題であると思われます。また、町内では以前から近くに避難場所を設けてほしいという要望がありました。そこで、名洗町の上方に位置する三井の塩田跡地のロータリーを避難場所としてみてはどうかとの話しが出ていましたが具体的には実現していません。現況の避難場所は第二中学校や高神小学校になりますが、車での避難ができて歩いても歩いての避難は遠いので厳しいです。

名洗町は小畑川の左右で道が2つに分かれます。川の東側は高台にある元有料道路まで歩いて避難できます。しかし川の西側は、集落に近い高台がお不動様や土手斜面程度しかなさそうです。このあたりは地図の等高線から、お不動様の場所で10m以上あります。町内では高い所にこのお不動様があるのですが、建物が古いので、ここに避難しても建物が地震で崩れてしまい、二次災害にあう可能性があります。お不動様よりもさらに上の斜面上にはモーターがあります。この付近では高さが25m以上あります。このモーター付近まで避難ができれば、ひとまず大きな津波からは逃れることができるのではないのでしょうか。また、町内の北東方向にあります恵比須山の稲荷神社についても、標高が20m以上ありますので、津波から逃れることができますが、頂上付近や神社が避難待機できる場所かを再確認しておく必要があります。集落からやや離れた所になりますが、このような高台もいくつか存在しています。今回の震災を踏まえまして、改めて名洗町内における近場で安全な高台にある避難場所について検討しておくことが重要な課題と言えます。

小畑川の津波遡上による浸水についても課題があります。今でも河川改良がされている所とそうでない所があります。現状では下流の方が川幅は狭くなっています。津波が遡上した際には、水が河道内を抜けきれなくて横に溢れてしまう状況にあります。これまでも、川幅を拡げる工事は2回程度実施していますが、それでもやっぱり狭いと思います。小畑川下流における川幅の拡張については、今後もっと真剣に考えなければいけない課題です。

町内の避難訓練も、今後はしっかり実施していかなければならないと思います。市役所主催でこれまでに実施してきた訓練は、あまり真剣なものではなかったように感じました。それでも課題が見つかりましたので、実施しておいて良かったです。その課題とはお年寄りの避難についてです。お年寄りの中には「避難誘導をしてくれる人が来てくれる」という認識で避難せずに待っている方がいました。私たちは、各自で避難してもらうのが無難と思い、これまでお年寄りをきちんと誘導する意識はあまりありませんでした。今回の震災では、その時の教訓から地震がおさまった時にお年寄りの家まで行きました。しかしながら、今度はお年寄りが既に避難して家にいませんでした。ですので、地域内での住民の助け合いによる避難活動は、津波の危機迫った状況では難しい面があります。市役所では、そうした避難活動や避難訓練に関する講習会や出前講座についても積極的にサポートしていますので、一度町内会の方々を全員集めてそのような会に真剣に参加してもらう必要があると感じました。そうすれば、次の震災時には、だいぶ意識や行動が変わると思います。

○ 過去の地震や津波について

【会長】

この名洗町は江戸時代に大津波が来たという記録がありました。その文献は保管していたお寺とともに焼失してしまったそうですが、東方沖から大津波が押し寄せて名洗町まで抜けたそうです。私のおじいさんから代々聞き継がれていました。ちょうどその頃に、名洗町の高い所にお不動様が建てられたそうです。このお不動様は、今回の地震の時に、住民が避難した場所の1つです。

事業所施設の体験談ヒアリング①

事業所（銚子市漁業協同組合：職員）

○ 地震発生時の状況

＜地震発生 2011年3月11日 14：46＞

地震があった時は事務所の4階で会議中でした。最初は普通の地震だと思っていたのですが、だんだん揺れが大きくなりました。これまでに経験したことの無い大きな揺れが長く続きました。この漁協の建物周辺は埋立地なので揺れやすいのかもしれませんが。

4階から下に降りて一度外に出ました。情報入手はテレビやラジオでしたが、ほとんどがテレビのニュースからでした。鹿島コンビナートの火災の煙も見えたので、これはただ事でないと感じました。警報等の防災無線放送は聞こえていましたが、塩害のせいもありスピーカーの音が割れて聞こえにくかったです。漁協の事務所同士の連絡は電話を使用していましたが連絡をとるのが難しかったです。

○ 避難行動開始

＜大津波警報により職員は高い所へ避難 15：00頃＞

漁協の職員は約110人ですが、当時この事務所がある第3卸売市場には約70人がいました。仲買人たちは約300人です。市場ではちょうど入札の最中で、イカを入れていたトロ箱が多数積んである状態でした。テレビや防災無線による大津波警報が出た時に、これはすぐに避難しなければいけないと思い、職員に対しての避難指示を出しました。その時は緊急に館内放送もしたと思います。

職員全員が近くの高い場所まで避難しました。車でポートタワーの駐車場まで向かいました。向かう途中は渋滞もなく、スムーズに行けました。その後、駐車場脇の坂道を歩いて高い所に向かいました。仲買人たちはイカのトロ箱をそのままにして、漁協の職員とは別の場所へ避難していました。

漁協の職員が避難・待機していたポートタワー付近では、避難の解除が出たら事務所に戻ろうかとも話しをしていましたが、一度解散して自宅に帰る方がよいとの判断で17時50分頃に解散しました。翌日の出勤は指示しませんでした。電話連絡をするように言いました。

避難先からの解散後は、帰宅途中でカップヌードル等の非常食を購入するためにコンビニに寄りましたが、周囲は停電により暗くなっていました。帰り道は特に渋滞はしていませんでした。

＜船舶の沖出し＞

漁港内に停泊中の船は、沖出しした方がよいということになりましたが、漁協の指示というよりも船員自らの判断で沖出しをした状況でした。船同士の無線による情報交換で沖出ししたケースもあったと思います。組合員は約300人ですので、船についても300隻以上はありました。組合員の中には自宅から漁港に向かい船を沖出しした者もいました。大型船やキンメの船40～50隻程度は沖出ししていましたが、巻網船等は他の地域から来た船ですが、それらの船についても沖出ししていましたが、津波が来て沖出しに間に合わなかった船もありましたが、そのような船は岸壁付近や港内で待機する状況でした。また、不法係留のヨットもありましたが、そのヨットは津波により陸上に打ち上げられてしまいました。

○ 地震と津波による被害状況

翌朝、9時30分頃に被害状況を確認するために、第一卸売市場、第二卸売市場、第三卸売市場等を見て廻りました。柱が破損したり、事務所内が浸水したり、明りが割れて散乱したり、砂の堆積した箇所がありました。特に第三卸売市場のイカのトロ箱については津波によって流され散乱しましたが、仲買人たちが既に掃除してくれていたため市場は比較的綺麗になっていました。これらのトロ箱が300個、ダンベ（水産物を入れる大型の黄色箱）は300個流失してしまいました。また、フォークリフトは10台浸水してしまいました。その内9台は修理することができ、残り1台は修理不能でした。クレーン車やポンプ等も浸水してしまいました。第三卸売市場の漁協の建物では、1階の床の入口のところまで浸水しましたが、コンピュータ関連は大丈夫でした。入札システムはなんとか影響がなかった状態でしたので比較的早めに入札関連業務が再開できました。ただし、もう1m高い津波が来ていたら全部やられていたと思います。船の被害は小型船の転覆等があり、54～55隻程度でした。

今回の地震と津波は被害が大きく、漁港としての機能が一時的に失われてしまいました。ただちに復旧できる状況ではなかったのですが、三陸の漁協に所属していた漁船が銚子漁港に来ていまして、「地元で早く戻りたい」とのことでしたので、その船の水揚げを協力しました。水揚げの手助けは震災後2～3日には実施していたかと思います。しかしながら、そのうちに福島原発の放射能問題が発生しまして、水産物が売れなくなってしまう事態に見舞われました。そこで、銚子周辺で漁獲した水産物については、3月23～25日くらいに検体を出して検査してもらいました。結果は影響が無く、大丈夫であることを確認しています。なお、漁港の防波堤の外側にある30～50tの消波ブロックは津波の衝突により沖側が緩んでいる箇所もあると聞いています。津波の力が大きかったことが窺えます。

○ 今回の地震・津波をふまえて

津波ハザードマップは配布されていまして以前から見ていました。2010年にチリ地震で津波がありましたが、その時はそれほど大きな津波ではなかったため、まさかこんなことになるとは思いませんでした。

避難行動はスムーズに行きましたが、今後は漁協内部の備えとして、震災に対しての連絡・業務・出勤体制を考えたマニュアルづくりを考えています。特に職員に対しては、自宅の被害状況や家族の安否を確認してから翌日出勤するように夜のうちに指示をすることも大事だと思いました。



3月13日 第一卸売市場の柱の崩壊
(銚子市漁業協同組合提供)



3月13日 第一卸売市場の雨よけ破損
(銚子市漁業協同組合提供)



3月13日 外川支所外川給油所の事務所内被害
(銚子市漁業協同組合提供)



3月13日 津波浸水によりポンプ使用不能
(銚子市漁業協同組合提供)



3月13日 外川支所犬若倉庫の被害状況
(銚子市漁業協同組合提供)



3月12日 外川漁港の千駒ヶ岩前にて
津波により打ち上げられた漁船

事業所施設の体験談ヒアリング②

事業所（銚子杉野：事務員）

○ 地震発生時の状況

<地震発生 2011年3月11日 14:46>

事務所の1階で地震を感じました。普通に立っていられないくらいの揺れでした。建物は鉄骨造でしたが古いので天井が落ちてくるかもしれないと思い、ひとまず外に出て避難しました。事務所内は机の引き出しが出た程度で、荷物などの散乱や棚の転倒もありませんでした。

外に出ていた時、消防団員に「避難して下さい」と言われました。なお、防災無線については聞こえていなかったと思います。

JR線より南側では停電していましたが、事務所は停電していませんでした。事務所内にはテレビが置いてありましたが、漏電火災が心配だったので地震直後からコンセントを抜いて見ていませんでした。ただし、私達が帰宅した後に事務所に戻ってきた社員がテレビを付けて震災情報を入手していたかもしれません。

○ 避難行動開始

<自宅へ帰宅 15:00過ぎ>

事務所のすぐ裏に利根川があります。外に出て川の水面を見ていたところ、水位が下がった時もありました。どれくらい下がっていたかは覚えていません。また、水位が徐々に上がって来たのも見ました。停泊していた船が沖に逃げていく様子も目撃しました。

男子社員は全員が出先に行っていて事務所にはいませんでした。社長が後から来て事務所に残っていた女子社員に避難するように指示したので、急いで帰宅の準備をしました。飯沼町方面は津波の避難勧告で、すでに閉店していたとのことでした。また、利根川の対岸に出向いていた社員は「常陸川水門や利根かもめ大橋は震度5以上で通行止めになるから、戻れないかもしれない」と話していました。結局は銚子大橋をなんとか戻って来たそうです。事務所脇の岸壁には給油船が停泊していましたので、出先から戻って来た社員は安全確認と津波から船を守るために、交代して一晩中見張りをしていたとのことでした。

私の携帯電話は、まったく通じませんでした。違う電話会社の子供の携帯電話からは通じたので安否確認ができました。また、祖母が子供を迎えに行くとの連絡が取れたため、各自別行動により避難しました。

自動車で親田町にある自宅へ向かい帰宅しましたが、新生町の千葉銀行付近で一部家屋の壁が崩落して通行できない箇所がありました。そこを迂回して元有料道路方面に向かいました。市内では、車の渋滞はなくスムーズに通行できました。元有料道路の路肩には、びっしりと車が駐車していて、携帯電話で津波を撮影している人が沢山いました。その場所は路肩が広がったこともあり通行できました。

帰宅後も余震が続いていて怖かったです。家屋が古かったのと、近くの避難所がわからなかったこともあり、車の中で一晩を過ごしました。また、断水もしていましたので、生活用水に不自由しました。

翌日は出勤しましたが、敷地内および道路等に大量の砂が積っていたので、みんなで片付けました。

○ 地震と津波による被害状況

会社の近所では津波による浸水被害があったのですが、事務所内は浸水しなかったため、特に被害もありませんでした。当日、私は浸水する前に事務所を出ていましたので、周囲の浸水状況は見ていませんでしたが、浸水し始めた時に川沿いの軽自動車が浮いて流れて来て、偶然にも外壁の隙間（切れている裏口箇所）にその車がスッポリはまったようです。車が堰の役目を果たしてくれたみたいで、このまま敷地内の浸水はたいしたことがなかったようです。また事務所前で新興橋の工事をしており、橋台背面のかさ上げもしていましたので、その高さもあって浸水がそれほどではなかったのかもしれませんが。

なお、波崎東小学校へ通学している子供の話ですと、校舎の3階以上に上がって避難していたそうですが、そこから漁港内を見ると、津波により船が傾いて沈没する様子が見えていたそうです。

○ 今回の地震・津波をふまえて

津波ハザードマップは見たことがあったかもしれませんが、あまりはっきりとは覚えていませんでした。これまで、津波のことは「数 cm 水かさが増える程度」というような感覚で、大きな津波がくることは考えていませんでした。今後はホームページや新しく出されるハザードマップ等も見ておこうと思いました。

また、情報を早く的確に入手できるように、銚子市役所の防災・防犯メールを登録しました。会社や家の近くの避難所も知りませんでしたので、いざという時のために最寄りの避難所も今回確認しました。

公共施設の体験談ヒアリング①

公共施設（銚子マリーナ：職員）

○ 地震発生時の体験

＜地震発生 2011年3月11日 14：46＞

その時、私は市役所からマリーナに戻る途中で車に乗っていました。確かに車が揺れているのを感じました。古い社用車でしたのでサスペンションが悪く、なんか今日は違うなという程度で最初は地震に気づかなかったのですが、付近の建物から人が飛び出してくるのを目撃しました。おそらく揺れが怖くて道に飛び出してきた状況だと思われます。車を路肩に止めて降りてみたら相当揺れていました。すぐに車のラジオを付けてみると大きな地震が起きていることを確認しましたので、マリーナが心配になり急いでマリーナへと戻りました。

＜地震発生時のマリーナの対応 ＞

マリーナの事務所に戻り「どうなった？」という感じでスタッフに聞きました。当時のスタッフは、事務所内に合わせて5人、それとヤードと呼んでいる修理工場に職員2人、メカニック業者さん2人くらいがいました。マリーナの中にも当然利用客が3～4組いましたし、防波堤辺りで釣りをしている人も見かけていました。マリーナでは、ヤード、棧橋、センターハウスや全域等に切り替えられる放送システムがありましたので、事務所にいた職員は一斉放送で「地震です。津波警報が出ています。」というような避難勧告を放送したとのことでした。とにかく、津波警報が出ていたことと揺れが今までにない地震でしたので、見える範囲内の利用客や釣り人には放送して知らせなくてはとの思いだったそうです。私は外出中でしたので、その放送は聞いていませんでしたが、放送を2～3度いれて皆さん無事に帰って頂いたところまでが3時過ぎ頃でした。

○ 津波発生と避難行動

＜もう1つの大きな地震発生 15：00過ぎ頃＞

マリーナに戻ってきたのが3時前後でした。その時は、一発目の地震は終わって落ち着いていましたが、その後3時過ぎ頃にもう1発、大きな地震が茨城県沖でありました。

＜津波到達予想時刻 15：20頃＞

茨城県沖の二発目の地震後すぐにテレビを見ました。テレビのニュースはつけっぱなしでした。そうしたら銚子に津波が来ると言っていたのが3時20分頃で最初は2mと出ていました。しかしながら、実際3時20分頃には全く水位が変わりませんでした。当時では、まさか、こんな大惨事になるとは私を含め誰も思っていませんでした。

その時はイルカウォッチ船フリッパー号が停泊していました。その船長が来て「もしかしたら水位が上がるかもしれない」と言っていました。2010年のチリ地震の津波では70cmくらい水位が上がりましたが、波が押し寄せてくる様子はありませんでした。ゆっくりゆっくり水位が上ってくるのが昨今の津波と認識していましたので、今回の津波もそのような水位がゆっくり上がるものだと思っていました。フリッパー号が別の場所に移動させたいというので、「船を動かすならば沖に逃げたほうがよい」とアドバイスをしました。また、どっち方向に出たら良いかとのことでした。船による津波退避の経験はありませんでしたが、即座の判断で「南方向が開けているので南に向けて5～6マイル浅瀬を抜ける位まで」とアドバイスをしました。

<大津波警報切り替えにより高台へ避難 15:30過ぎ>

フリッパー号のキャプテンが船に乗り込み、ロープを外す手伝いをマリナースタッフがしたのが3時30分過ぎでした。出航を終えて事務所に戻ったら、大津波警報に切り替わり8~10mになっていたと思います。

とにかく普通ではない、高台へ避難しよう判断しました。私も銚子の人間ですから、この辺なら地球の丸く見える丘公園が高いことは知っていますし、駐車場もたくさんあります。

マリナーのスタッフは車通勤でしたので、各自に対して避難指示をしました。5台程度で団子状態になりながら避難しました。マリナーを出てから千葉科学大学のところを曲がった時にバックミラーを見るとビーチの方から水が上ってきたのがわかりましたので、これは危険だと思いアクセルを踏み込みました。渋滞まではいっていませんが、水産加工工場の方々の軽自動車等が多く、同じ方向に行くのだろうと思いながら地球の丸く見える丘に向かいました。マリナーを出るときに、とっさに持ったのが無線機でした。坂道途中の曲がり角の路肩にて停車したスタッフと上まで上がったスタッフとで連絡を取り合っていました。地球の丸く見える丘の駐車場には、大学の生徒や職員、白い制服を着た水産加工工場の職員、住民の方が結構いました。

<津波襲来 16:00前~>

4時ちょっと前に下を眺めたところ、バックミラーで見た一波だと思いましたが、大きい波と言うか水位が上がった感じで大学まで津波で濡れていたのを確認しました。しばらく見ていましたが、雨が降ってきて寒くなったので各自動車内で過ごしたり、また海を見たりしていました。

5時30分くらいにマリナーのスタッフから「凄いことになっている」との連絡がありました。自分のいた場所からは、樹木や大学の陰になったりしてマリナーの全容が見れませんでした。皆、あっちこっち散らばって海を見ていたのですが、マリナーが見える場所にいた者は、マリナー所属の57フィートのクルーザやボートがメイン桟橋の上に仲良く並んでドーンと乗り上げてしまった状況を確認しました。また、車が水面で浮いているのも見えました。

マリナーのヤード側も水位が上昇し、修理中の船が浮かんでしまいました。ロープで4箇所を縛っていたにもかかわらず、ロープが切れてしまったようです。引き波によって外洋の方に浮かんで流されたり、ヤードの方に乗り上げてしまう現象を確認しました。

5時30分から30~40分程度、下の方を見ていましたが、辺りが日没で暗くなってきましたので、明日7時30分頃に集合することにして解散し各自、家へ帰りました。



3月11日16:01 銚子マリナー沖の津波襲来（銚子マリナー提供）



3月11日17:20 銚子マリーナ周辺の津波浸水状況（銚子マリーナ提供）

○ マリーナを襲った津波の高さについて

翌朝マリーナに来てみたら、昨日見えていたメイン栈橋上の船はないし、もっと驚いたのは栈橋自体が丸々なくなっていました。周囲には船が散乱したり沈んだり、もっと凄いのは今も手付かず状態のセンターハウスです。津波の衝撃によりガラスは破壊され、テーブルも何もかも全部流され、パソコンは芝生の上にあり、とにかく信じられない状況でした。

今回マリーナを襲った津波は、气象台の観測地点での高さ、2.5mとは違い、外洋に面しているのので、倍以上の高さはあったかと思います。2m程度の波では大学のグラウンドの方まで船は流されません。船が流れてしまうという事は、当然船底は地面についてなく完全に浮いた状態だったはずですが、船には水面下に沈む部分がありますが、特にヨットは下にキールという1.5m程度のバランスをとるための非常に重いパーツがあり、それを含めて浮かぶのは、どう考えても陸地から2m以上の水位があったと推定できます。その時の潮周りもありますが、海水面から陸上までは1m以上、そうすると単純に3m以上はあったのでしょうか。センターハウス内に残っていた水の跡を見ると、自分の背よりはるか高いところにありました。

マリーナの前には堤防がありましたが、津波はその堤防を乗り越えてさらにこの陸地に押し寄せてきました。これだけの被害を受けたのは、外洋からの津波だけではなく、屏風ヶ浦にぶつかってはね返ってきた津波が一緒になったのかもしれないとも考えています。マリーナに来た波の高さを名洗町の集落にスライドさせると、民家の屋根の高さくらいまでになるとみられますが、被害の状況から名洗町には津波の直接波が襲わなかったのではないかと考えています。

11日の5時30分くらいにメイン栈橋の上に並んだ船は翌朝、別々の場所に沈んでいました。その様子から見ると、栈橋に乗り上がったところから夜の津波再来により、再び港内に流され浮かんで廻っていたのでしょう。反復する波の影響もあって、第何波かはわかりませんが、8時30分前後の津波が現実的に一番大きかったのではないかという気がしています。

○ 津波による被害状況

被災した船は1艇や2艇でなく多数でしたが、船を見殺しにすることがどうしてもできませんでしたので、マリーナ所属の船が今見えるだけでどのくらいなのか、先ず被害状況の確認をスタッフで手分けして行いました。犬若方面のテトラポットの上に乗っている船、大学のグラウンドや通路に流れた船、大学前の道の角や公園に流れた船、マリーナの中で沈

んでいる船、どこにあるか判らない船、船名や船体の損傷に限らず確認できる船、今確認できるものをリストアップしました。いつも見ている船ですから、ある程度船体の一部が見えれば、その色使いとか船名の記が書いてあるもので特定できました。詳しいデータを見ないと正確ではないのですが、約でいいますと海上係留は約130艇、陸上は約20艇、そのうち行方不明が77艇でした。後日、その内の約30艇ほどがマリーナの港内に沈んでいたのが分かりましたので、残り30艇ほどは太平洋側かさらに沖へ流されたと思います。マリーナに沈んでいた船については現在30艇ほど陸上に引き上げました。

お客さんには「現状を早く電話連絡しなくては」という思いでしたが、電気が不通で電話は繋がらないし、携帯電話でも連絡をとるのに3~4日は掛ってしまいました。テレビの報道は全て東北地方が中心だったので、銚子が津波の被害にあっているとは知らないお客さんもいて、当然ながらクレームも頂きました。銚子の状況をよく知っていた人は「スタッフ全員が無事で本当に良かったね」と言うような温かい言葉をかけて下さる方もいました、そのような言葉が一番嬉しく思いました。

事務所も室内が津波でやられ、書類などは流れ出てしまいましたが、大きな金庫は流れることなく横倒しになっていました。後でバールを使って苦労して開けましたが、中は泥だらけで、その中に入っていた物は真っ黒になっていました。



3月12日 津波襲来後の銚子マリーナの被害状況（銚子マリーナ提供）

○ 今回の地震・津波をふまえて

銚子マリーナでは放送設備がありましたので、付近の利用客や釣り人に対して通常判断ですぐに周知することができました。ただし、防災無線は事務所内にも入るはずでしたが、聞こえていなかった様に思います。防災無線は自宅付近にもありますが、聞こえてくるのが途切れ途切れだったり、ハウリングが前々からあったようです。それよりもテレビのニュースをつけっぱなしにして情報を入手していました。

銚子マリーナの緊急マニュアルは、会社と各自の家に一部ずつ持っていました。自分の頭に入っていることと比べる程度でありましたが、定期的にスタッフ全員で再確認し、改善点があれば改善するといった作業は行うべきだと感じます。

我々は海に出るの仕事も多く、危機管理・レスキューの体制を含めた自分達の行動は普段から意識し、レスキューを含めた水上員の資格、危険物取扱い、機械関係、人命関係の資格等を持つようにしています。当時、避難勧告放送を含め、特に混乱なく動いていましたが、冷静に対応すべき点もあったかと思えます。

当時は、まさかこんなことになるとは思ってもいなかったし、またすぐに事務所に戻っ

て来ることが出来るとも思っていましたので、私は無線機だけを持って避難しました。しかし、別の職員が、会社印、銀行印及び通帳をひとまとめにして保管してある金庫を持ち出していたので、震災後の片付け等に必要な現金も不自由ありませんでした。その職員とっさの判断でした。重要なものを普段からワンセットにしておき、即座に持ち出せるようにしておくことは教訓だと思いました。

津波ハザードマップは、マリーナの受付に並べて置いたり、「市からこういうのがありますのでどうぞ自由にお持ち下さい」ということをしていました。「マリーナ付近に津波が来たらこうなるよ」ということが書いてあったと記憶していますが、まさか本当に来るとは思ってもみませんでした。

< コラム 2 : 巨大津波観測計 >

市内の検潮所内に巨大津波観測計が設置されています。全国でも 13 箇所にしかない観測計で、高さ 20m までの津波を観測することができます。観測計のデータは信号ケーブルにより気象台に伝送されて記録されます。



(銚子地方気象台提供)



(銚子地方気象台提供)

検潮所 (左) と検潮所内に設置されている巨大津波観測計 (右)

公共施設の体験談ヒアリング②

公共施設（清水小学校：派遣による市役所職員）

○ 地震発生時の行動

＜地震発生 2011年3月11日 14：46＞

かなり大きな地震が発生しましたので、避難するよりも学校の児童生徒の怪我や事故がないかどうか、その確認を先ずしなければなりません。小学校13校、中学校8校、市立銚子高校等に連絡しましたが、電話の通じる学校と通じない学校がありました。そのような電話対応をしているところに2度目の大きな地震が来ました。その時に市役所4階は危険だとの判断に至り、建物から出て避難していた別の職員と同様に一時避難することにしました。地震がある程度落ち着いた段階で、学校の教職員も職員室に戻っているだろうと思い、1階にあった電話で再度、児童生徒の安否確認のため学校へ連絡しました。そうしている内にも余震は続き、これは危ないとのことで、また外に出て30～40分程度避難待機していました。その時に利根川の水が溢れているとの話もありましたが、学校への連絡確認をしなければならない状況でしたので、4階に戻り電話連絡を続けました。普通電話もそのうち通じなくなり、携帯電話もダメになりました。ただし、アナログ式の携帯電話が繋がりましたので、その電話を使ってどうにか各学校に残っていた児童生徒に怪我人がいないか確認ができました。その連絡のやりとりは17時30分頃まで続きました。

銚子市役所の避難所開設にともない、私どもは清水小学校に行くことが事前に指示されていたので、そちらに向かいました。学校では先生方が体育館を避難所として開放していますので、そのカギを受け取り、先生方には帰ってもらい、後は市役所職員が対応することになっていました。避難所では夜通しの対応になると思いましたが、防寒やジャージ等の服装に着替えて清水小学校へと向かいました。

○ 清水小学校へ派遣

＜清水小学校へ到着 18：30前～＞

清水小学校に到着しましたところ、体育館が使われていませんでした。実は体育館が床のワックス塗りをしたばかりで臭いが強く、これでは避難者の気分が悪くなってしまうと学校側が判断し、比較的新しい校舎特別棟の1・2階を避難所として開放していました。

500人くらいが1階と2階に分かれて全部で6室くらいに避難していました。また、校庭にも100人程度、車の中で過ごす人もいましたので、合計600人くらいの避難者がいました。市内の避難所では最も人数が多かったようです。この辺りは高台にある学校でしたので、海沿いの低い場所の住人がここに多く避難してきたと思います。また、「自宅は波崎だけど銚子で働いていたので、ここなら安心と思ってきました」という避難者もいました。

校舎内は停電が発生しませんでしたし、学校のストーブを各室内に運んで暖めることもできました。テレビもありましたので、テレビをつけて震災関連の情報を流していました。ただし、清水小学校には毛布、食糧、水等の備蓄が全くないことが分かりました。したがって、本部に連絡して清水小学校の避難者数が600人くらいであることと、食糧等の備蓄が全くないことを伝えて手配を要請しました。ちなみに、学校に到着した時は学校内で保護者を待っている児童生徒はいませんでしたので、先生方が既に引き渡しを終えていたのではないかと思います。なお、避難していた子供さんについては少数いました。

<避難者の状況と対応>

停電もなく、テレビによる情報も常に流れていましたので、避難者には大きな混乱もなく静かに過ごしていました。避難者の多くはテレビの震災情報を見ていました。当初は市役所の職員3人での対応だったのですが、避難者が多かったため、後から追加になり最多時は5人の対応となりました。

毛布やお菓子・カンパンなどの食料が清水小学校に届いたのは20時くらいだったと思います。手配されて届けられた数量は多くはありませんでしたので、毛布はお年寄りや体の具合が悪いかたを優先しました。また、食糧についても、みんなにいき渡るように館内放送をしまして、我々職員と先生方とで学校のビニール手袋を使って分配しました。カンパン1人3枚程度だったと記憶しています。近くのコンビニも営業していましたので、避難者の中にはコンビニで食料を買ってきて食べていた方もいました。

車の中にいた避難者に対しても、「室内は暖かいですよ」と声をかけましたが、来る人は少なかったです。余震も相変わらず続いていましたが、避難者のいる校舎は、比較的新しいこともあり別の旧校舎よりも揺れなかったようで、避難者にとっては良かったのではないかと思います。本部からは看護師さんも派遣されて来ていましたし、消防や警察の方も見廻りに来てくれていました。

22時くらいに断水があるかもしれないとの情報が本部やケーブルテレビから入りましたので、学校中のバケツを先生方に集めてもらい、そこに水を貯めて断水した場合に備えていました。その後、トイレが断水の影響を受けて大変になりましたが対応できました。その後も我々と先生方とで2時間に1回程度、今度はプールの水を汲んで備えていました。地震も落ち着いていたので自宅で寝たいという方もいまして、全部で500人くらいになっていたと思います。

23時頃には、さらに援助物資が届きました。今度はほぼ全員にいき渡る毛布、大量のお菓子やパン類等の食料、そして水が届きました。全部で6室ほどでしたので、約6等分にして我々と先生方とでみなさんに分配しました。

一晩を学校で過ごし3月12日の朝を迎えました。学校の先生も泊まる方々がほとんどでした。

朝の8時頃になりましても300~400人くらいの方が残っていました。9時から10時に市役所の職員が来ましたので、そこで交代しました。次の日も避難者対応のための交代がありましたので、3月13日の朝8時頃に再び清水小学校へ行きました。避難者が少なくなっていましたので、本部からはここは閉鎖するので近くの銚子市青少年文化会館に避難者を移動していただくようとの指示を受けました。まだ不安な方については、その文化会館まで歩いて避難していただくようにしました。その後は春日小学校に向かいました。その春日小学校も若い方が少数避難していましたが、そのうち閉鎖となり10時から11時に市役所本部に戻りました。そして、第八中学校や豊岡小学校等の数箇所に「閉鎖になりました」という紙を張りに行き、15時頃に避難者対応を終了しました。

なお、避難者対応中は、防災無線については特に気にならなかったのですが、防災メールについては頻繁に情報が入っていましたので、よく見ていました。

○ 今回の地震・津波をふまえて

清水小学校の先生方がとてもよく動いてくれたのが印象的でした。校長先生や教頭先生のもとで12~13人くらいの先生方が男女を問わず協力し、我々との連携もうまく行っていたことが、多数の避難者に対応できた要因と考えています。後日、文化会館に避難していた人から「清水小で良くしていただきありがとうございます」と言葉をかけてもらうことができました。

た。先生の中には翌日以降もさらに残って避難者の対応をしてくれた方も多数いました。ちなみに、清水小学校では生徒対象の避難訓練を年2回している他に、短時間でできるワンポイント避難も頻繁に行っていることを聞きました。

今回の課題としては、やはり何も備蓄がなかったことではないかと思います。市内で避難者が最多になった避難所でしたので、今後はやはり毛布、非常食、水等の備蓄を検討しておくことが重要と考えています。

避難所内でのペットについても注意しなければならないと思いました。やはり衛生面上の問題がありますので、「室内にペットはダメですよ」との呼びかけに対し、廊下や中庭に移していただいた方もいましたが、そのまま室内に入れていた方もいました。このようにペットと避難してきた方については、ペットを別の場所に移す場所の確保や呼びかけも大事であると考えています。

< コラム 3 : 稲むらの火 >

濱口梧陵（銚子の醤油製造業 七代目当主 濱口儀兵衛）は、安政南海地震（1854年）の地震後に大津波が来ることを予期しました。梧陵は紀州有田郡広村で村民を避難させるため、自分の田圃に積んであった収穫直後の稲束（稲むら）に火を投じて急を知らせ、村民の命を救ったといわれています。また、将来の津波被害を防止するための大防波堤建設（広村堤防：和歌山県広川町）も行いました。



濱口梧陵紀徳碑（銚子市妙見町）

公共施設の体験談ヒアリング③

公共施設（第二中学校：派遣による市役所職員）

○ 地震発生時の行動

＜地震発生 2011年3月11日 14：46＞

地震は揺れが大きくて長く続いていました。地震発生時は市役所の建物から一時的に外へ避難しましたが、市民の避難対応をする必要がありましたので、再び建物に戻りました。市役所は停電になってしまい、電話もほとんどつながらない状況でした。そのため、急いで避難所を開設する必要があると感じました。

銚子市では避難所の開設計画があり、何処の避難所へ、誰が向かうかが事前に決まっています。計画では、小学校、中学校、高校等の21箇所の全てに職員が派遣され避難者の対応を行います。私は第二中学校行に行くことが決まっていたので、寒さにも対応できる服装に着替え、ただちに第二中学校へ向かいました。

○ 第二中学校へ派遣

＜第二中学校へ到着 16：00頃～＞

市の担当者は2人向かいました。私が最初に16時頃に到着し、後からもう1人が来ました。向かう途中では、避難者の車による渋滞はありませんでした。ただ、市役所付近は停電していきまして、駅前大通りの十字路の信号機がついていませんでした。そこから東側は信号がついていましたので、それ程混乱はなかったです。

第二中学校に到着して、先ず水・毛布・食糧等の避難物資が常備されていないことがわかりました。市役所と連絡をとりたかったのですが、携帯電話等は繋がりませんでした。消防団員が来てくれましたので、こちらの状況を伝えました。しかし、本部に伝わっているか分からない状態が続きました。そのため、状況を説明しに、市の担当者の1名を車で本部まで向かわせました。このように、しばらくは何も連絡がとれませんでしたので自分で判断し、対応していました。

＜避難者の状況と対応＞

第二中学校では、生徒が20～30人くらい保護者を待っていました。保護者が迎えに来れずに一晩明かした生徒はいませんでした。20時頃には全ての生徒が帰れました。

地域住民の方もすでに少数は避難して来ていました。軽装備で歩いてきたと思います。消防団員の方が見回りに来てくれていましたので、色々情報交換することができました。近くの高神小学校には避難物資があることがわかり、分けてもらう話しをしました。しかし、高神小学校には多くの避難者がいて、避難物資を第二中学校に持って行ける状況ではありませんでした。高神小学校は多少高台ということもあり避難者で溢れているとのことだったので、数十名の方が第二中学校へと移動・避難することになりました。移動してきた方の多くは千葉科学大学の学生と職員で高神小学校から歩いてきました。車で避難して来た人は少なく、車をどうするのかという問題は特にありませんでした。

避難場所は体育館だったので寒かったです。学校のストーブ、運動マット、段ボール等の学校備品を使用することを学校側に説明して利用できましたが、体育館が広くなかなか暖まりませんでした。体育館にラジオを持ち込み震災の情報入手手段としていましたが、防災無線については聞こえていなかったように思います。近所の方からのご好意により飲料水のサーバーを提供していただき、とても助かりました。第二中学校は停電がなかったのですが、断水が始まるというのでトイレ用の水をバケツに汲んでおく作業をしました。

暗くなり始めた頃に本部から水・カンパン・毛布が届きました。学校の先生方は一番遅

い方で24時頃に一旦自宅に戻りました。我々も本部から交代要員2名が来たので、朝の2時頃に一旦自宅に戻り、朝に交代して避難者の対応を致しました。

避難者の方々については、翌日の午前中には全ての方が自宅へと戻っていきました。

○ 今回の地震・津波をふまえて

私は2010年のチリ地震による津波警報が発令された時も、高神小学校で避難者対応を致しましたが、その時の経験がおおいに役立ちました。今回は本部との連絡がとれませんでした。消防団員の方々が頻りに廻って来てくれたこともあり、消防団員との情報交換や連携をとることができて良かったです。また、千葉科学大学の学生達が学校の特徴を活かし頑張っていました。物資がない中で、地域住民同士の助け合いがあったことも良かったと思います。

本部との連絡のやりとりについては、無線等が必要であると痛感しました。これは既に市の方で揃えました。今回は高神小学校に避難者が集中してしまいましたが、近隣の避難所間で速やかに連絡がとりあえるようになれば、避難誘導もスムーズにでき、避難者の負担も軽減できると考えています。なお、情報伝達の不都合により、一時的に1人で避難者対応を行う時間帯がありました。避難者に何かあったり、避難者が増加してしまうことがあれば、1人では対応しきれなくなるかもしれないという不安もありました。

また、緊急時におけるストーブや運動マット等の学校備品を速やかに利用できるように学校側にも十分理解していただくことが重要であると感じました。そのためにも、学校独自の避難訓練だけではなく、地域住民や、体の不自由な人も含めた避難訓練も必要であると考えています。また、寒い時期ですと、灯油等の暖房用燃料が必要になってきます。今回のように避難所として使用した際には、灯油等は後で補充することを学校側に伝えておくことも大切だと感じました。

公共施設の体験談ヒアリング④

公共施設（市立銚子高等学校：教職員）

○ 地震発生後の行動

<地震発生 2011年3月11日 14:46～>

地震当時は本校管理棟2階の教務室にいました。揺れは大きくて長く続いていました。物が倒れて、地震直後に停電がありました。校内にいる生徒の安否が心配でしたので、揺れがおさまる前から落下物に気をつけながら走り出しました。

<校内での避難誘導>

教室内の生徒には「危ないので、まずは身の安全を確保するため真ん中に集まっていなさい」、「揺れが収まったら荷物をまとめて校舎の外へ避難しなさい」と指示を出しながら、校内の各教室を廻っていました。実際の動きとしては14時47分には普通教室棟2～3階を廻り、そのあと15時頃に専攻科南側駐車場へ行き、再び普通教室棟1～3階と特別教室棟を廻って最後は体育館にいました。

当日は午前中に1・2年生の試験がありましたので、午後は残って勉強していた生徒が80人、教職員が30人程度いました。生徒の避難誘導は、一旦、校舎の外のキャンパスストリートに集めましたが、その後体育館に移動し避難待機させました。

校内にはラジオがありましたし、防災無線からも情報を入手できました。また、銚子では過去に大津波があったことも知っていましたので、大きな地震が来た時は必ず津波が来ると思っていました。本校の標高は、グラウンドで42m程度と高台にあるので、銚子市の避難所に指定されています。そのため、大津波警報が発令された後も、ここに居るのが一番安全であると判断しました。

波崎、神栖、香取、八日市場、旭等、遠方から通学する生徒は、夜間も校内で避難待機させました。ただし、保護者に連絡が取れて、学校まで迎えに来れた生徒については、帰宅させました。当時はなかなか携帯電話も繋がりませんでしたので、避難待機していた生徒は、保健室に宿泊させました。

<遠方の津波を目撃>

校舎内から避難誘導している最中に、建物の中から遠方に津波が来ているのを目撃した生徒職員がいました。本校からは利根川や太平洋沖が見渡せません。津波は校舎から二方向に見えていたとのことでした。一方は、普通教室棟3階教室から南側の太平洋に一直線状の津波、もう一方は、北側の特別教室棟屋上から利根川河口沖にかけての津波でした。どちらも、遠方からの目撃なのでそれほど大きくはなかったようですが、利根川については川底が見えていたそうです。

○ 住民の避難対応

地震直後は住民の方が何人避難して来るのか分かりませんでしたので、体育館で生徒と一緒に椅子を出したり、救護場を設置したりしました。また、震災発生時に出張中だった校長先生が戻って来てから、体育館の入口に災害本部も設置しました。

当日は300人くらいの住民が避難してきました。住民の方には床下が寒いこともありましたので土足のまま体育館に入ってもらいました。校内の春台会館は宿泊できる施設でしたので、家に帰らず避難待機を続ける方々は、体育館からそちらの施設に移動していただき3日間開放しました。学校自体は避難所が開設されていた3月14・15日まで臨時休校としました。

車を使って本校に避難する人が多かったようです。なかには水戸ナンバーの車もありました。おそらく高台のない波崎あたりから避難したのではないかと思います。学校周辺の方でも、車に荷物を乗せて避難していた方もいました。

校内の建物が避難者で混雑していましたので、車の中で避難待機していただいた方もいました。車は空いたスペースやグラント内にきちんと駐車していただけない場合もあり、後から来る人の邪魔になることもありました。また、ペットと共に避難された方についても糞尿の始末がありましたが、ペット自体は車内にいてもらうようにしました。

トイレについても水洗トイレが使えないので、雨水を貯めてあった場所から水を汲んできて、その水を利用していました。水汲みはバケツリレー式で一晩続いていました。教職員だけでなく避難してきた中学生も手伝ってくれました。また、避難者の中で具合が悪くなってしまった子がいました。本校には看護科があり教職員は看護の免許を所持していますので、3人に残ってもらいまして、1人はその子を看護して、あとの2人で避難者に体調を聞いて廻って対応していました。

学校内には体育館の近くに備蓄倉庫がありましたので、生徒と一緒に水や食料を運んで避難して来た住民全員に分配していました。この備蓄倉庫には3日分程度の食糧を保管しています。市の備蓄材ですので基本的には市民や生徒職員に配布することになってはいますが、仕事や観光で来ている市外の避難者についても緊急時の避難所ですので対応するべきと考えています。

○ 今回の地震・津波をふまえて

本校では、これまでに校内で避難場所や避難経路を設定し、全員参加による避難訓練を年間2回実施していました。また、災害発生時の対応マニュアルもありました。そのため、震災当時は比較的スムーズに生徒の避難誘導ができました。また、震災後に教職員対象による詳細なアンケートを実施し、どう対応したかや個々の課題等を調べました。その集計結果を基に新たに避難所運営マニュアルを作成しました。

なお、今回の地震では車での避難者が多かったので、今後は混乱しないように車の誘導と駐車場所の対応が重要になると思います。

今回の避難者数は、本校の生徒が約80人、住民が約300人で合計380人程度でした。生徒職員の他に中学生や10代の若い方々等の協力もあって、避難者への対応は、なんとか無事に済みました。しかし計画上では、本校の避難者収容人数は体育館の床面積を1人当たりの面積から換算し、1600人となっています。本校のすぐ下にあります第4保育園や第五中学校も津波の危険性が出た場合は本校に避難することになっています。もし、それだけの人数が一度に本校へ避難して来た場合には、体育館だけでなく、教室や春台会館等、全ての建物を開放しなければ対応できません。そのような展開になると人員不足になり対応しきれなく厳しい状況になってしまうと思いました。また、備蓄されている物品についても不足してしまうと思いました。

公共交通機関の体験談ヒアリング①

鉄道施設（JR銚子駅：社員）

○ 震災当時の被害状況

銚子駅における運行管理は銚子駅だけではありません。市内では総武本線が猿田駅まで、成田線については下総豊里駅までの管理となっています。震災当時、管内における設備等での被害は出ておりませんが、旭市内の管内では飯岡と倉橋間のトンネルの盛土が一部崩れて電柱が傾いた箇所がございます。銚子駅構内も、机の引き出しが飛び出した程度で被害はありませんでした。

○ 地震発生直後からの行動

<地震発生 2011年3月11日 14:46>

社内規定の避難誘導マニュアルに則り行動を開始しました。銚子駅構内等の安全確認、駅構内および車輦内の乗客、利用客約100名を駅構外へ避難誘導しました。「運転再開まで車輦内に残る」という乗客もおりましたが、構外へ誘導致しました。

地震発生当時の運行列車は1本ありました。その電車は松岸駅のホームを発車した直後に地震が発生し、松岸駅構内で緊急停止致しました。その時、車輦内には50名前後の乗客がいたと思います。

<15:15頃>

銚子駅構外への避難については誘導を完了しました。避難誘導については、乗客の協力もありまして、比較的スムーズにできました。

緊急停止しました電車には、銚子駅から社員2名を派遣し、乗務員及び社員にて避難誘導を実施しました。乗務員と派遣した社員の対応により乗客からの苦情もなく避難ができました。

市内周辺は停電していましたが、銚子駅は停電しておらず、隣接する待合室にテレビを設置していたため、情報収集および情報確認手段のひとつとして待合室を開放しました。また、駅構内のトイレも開放しました。この時、駅周辺には利用客等を含め約200～300名程度があふれていました。銚子市役所に利用客の避難受入について打診しましたが、市役所は停電中だったため、連絡がうまくとれない状況が続きました。

<避難所への誘導 17:00頃>

市役所との協議により、社員2名で最寄りの避難場所である双葉小学校へ利用客の避難誘導を開始しました。この時には、駅周辺に集まっていた人数は減っていて、60数名の方を避難所まで案内しました。また、旭市内における軌道被災による運転中止等の運行・運休情報の掲示も行いました。

<3月12日以降>

翌日の3月12日からは、計画停電が頻繁に実施されるようになりました。市役所の防災無線における運休状況のアナウンスが開始されましたので、電車の利用客に対しての周知ができてととても助かりました。

○ 今回の地震・津波をふまえて

足の不自由なお客様が何人もいました。当時は車いすが駅構内で1台しかありませんでしたので、市役所から車いすを借りてきて体の不自由な方やご高齢の方をご案内できればよかったかなと思いました。

銚子駅の立地は、標高と津波浸水域から、今後更新される津波ハザードマップでどのよ

うな位置づけになるか、情報を提供して欲しいです。併せて避難場所・避難経路の変更等についても教えて欲しいです。

市役所の停電により利用客の避難誘導開始等について連絡がとりにくい状況があったため、市役所や消防と連絡がとれる無線の設置を要望したいです。

また、震災当時は防災無線が聞こえなかったため、スピーカーの位置や向きなどを工夫してほしいです。ただし、運休情報についての防災無線による周知は、駅での混乱等がなかったもので、良かったです。



3月11日16:00頃のJR銚子駅前



3月12日11:30頃の銚子駅構内

公共交通機関の体験談ヒアリング②

鉄道施設（銚子電鉄：職員）

○ 震災当時の被害状況

銚子電鉄では、銚子駅から外川駅まで、10の駅を管理しています。震災当時は、乗客に怪我もなく無事でした。また、管内における設備等にも被害はありませんでした。事務所には当時は3～4人いましたが、物が倒れるくらいで大丈夫でした。

○ 地震発生直後からの行動

<地震発生 2011年3月11日 14:46>

地震を認知しまして一斉に無線により全列車の停止および抑止指示を発令しました。当時は2本の列車が路線に出ていましたが、幸いにも駅で停車中（本銚子駅39列車と海鹿島駅40列車）でしたので、乗客に混乱もありませんでした。ただちに全線のき電を停止するとともに、無線により乗客の怪我や被災箇所が無かった報告を受けました。その後は、簡単な打ち合わせや施設点検をしました。

<列車運転の中止決定 14:55>

事務所では停電がありませんでしたので、テレビにて津波警報情報を入手し、以後の列車運転の中止を決定しました。防災無線や消防広報車の避難呼びかけが聞こえていたかもしれませんが、乗客の安否が第一でしたので避難どころではありませんでした。携帯電話も不通になっていましたので、とにかく小型の移動無線や公衆電話を通信手段として連絡を取り合いました。

運行中の列車には、上り車輌に10数名、下り車輌に15名程度の乗客がいました。もう少し遅い時間であれば、通学の小学生の通学に利用されていますが、地震が起きた時はちょうど下校時間の前でしたので乗車していませんでした。

事務所からは、社有車や個人の車で職員を列車が停車している駅に派遣し、乗客の避難誘導を開始しました。乗客は地元の方が多かったようです。それぞれ、最寄りの駅、目的の駅、または行き先付近まで案内し誘導をし、15時30分頃には完了しました。なお、派遣した車については、途中で渋滞もなくスムーズに移動できました。

<列車の回送 17:40頃>

施設点検については継続して実施していました。しかし、強い余震が15時15分頃に発生したため途中で止めました。地震が収まってから再度、施設点検を開始しまして、15時30分頃に施設点検が終了し異常がないことを確認しました。

その後、列車を回送して安全な場所に保管することになりました。そこで、17時40分に高台に位置する笠上黒生駅まで回送することを決定し、き電を開始しました。18時頃には回送を完了し、き電も停止しました。なお、笠上黒生駅では回送列車留置保安要員として1人配置しました。その人員を除いて事務所に職員を集めた後、1人を残して全員自宅に帰りました。ただし、1人は帰宅後に再び事務所に戻り、残っていた人員と交代で一晩中待機し、事務所内には必ず1人配置する体制をとりました。

<3月12日以降>

職員やその家族の安否確認については、翌日の朝に各職員へ連絡をしました。職員の中には自宅が津波で大きな被害を受けた者がいました。その職員については、自宅が浸水したこともあり3～4日間臨時休暇させました。

路線上の安全を11日中に確認していましたので、翌日の3月12日午後から運行を再開していました。ただし、余震が続きましたし計画停電もありましたので4月5日までは間

引き運転をしました。運休や間引き運転のお知らせについては、職員等を駅に派遣し告知したり、駅にビラを貼り付けたり、または災害用自販機にてテロップの表示をしていました。

○ 今回の地震・津波をふまえて

今回の地震では、乗客や職員ともに死傷者はなく、また車輛や施設等についても被害がありませんでしたので本当に良かったです。地震津波の災害対応マニュアルについては規定していませんが、通常業務での路線事故等に対応した指針はありますし、その訓練も年1回実施していましたので、今回の地震時でも臨機応変に対応することができました。ただし、地震や津波警報発令時における施設点検の方法については現在見直しを検討しているところです。

事務所で停電はなかったのですが、停電になった時のため発電機を備えています。いざという時は事務所内にある機材電源の確保のために利用できます。なお、普通電話や携帯電話が不通であった中で、やはり無線による連絡が有効な情報伝達手段でした。また、JR銚子駅とも直通の電話がありますので連絡を取り合い情報交換をしました。

ハザードマップについては見たことがありました。しかしながら、今回の地震で利根川や海岸にかけて本当に津波が来るとは思っていませんでした。事務所がだいぶ内陸側ということもありますが、過去に大きな津波が銚子に来ている話もありますので、地震後に再度、津波浸水区域の有無について確認しました。

なお、今回の震災では銚子だけでなく千葉県全体が被害にあいました。そこで、救援物資の送付を県に報告して3回ほど銚子電鉄から送付しました。その後ガソリン不足の影響により、送付が困難となってしまいましたが、事務所で製造保管していた救援物資（ぬれ煎餅）が少しでも被災者の役に立ったのではないかと考えています。

現在は地震後に起きた原発の放射能問題が残っています。この風評被害により銚子では一時的に観光客が例年の2割程度にまで激減しました。しかしながら、9月あたりから徐々にではありますが観光客も戻ってきていますので、今後も多くの方々が来て銚子電鉄を利用していただければと願っております。

公共交通機関の体験談ヒアリング③

交通施設（千葉交通：職員）

○ 地震発生直後からの対応と行動

<地震発生 2011年3月11日 14:46>

3月11日午後2時46分に発生した地震は、いままで経験したことのない大きな揺れでした。地震発生時、千葉交通の銚子営業所では職員2名で、幕張や東京へ行く高速バス18台、市内バス14台、旭市コミュニティーバス6台、香取市代替バス2台、合計40台の運行管理をしていました。

市内を走行していた乗務員の話では、パンクしたのかと思うほどの揺れだったそうで、近くの電柱や看板が揺れていたのを路肩に寄せて一時停車したとのことでした。

とにかく大きな地震であると認識しましたので、車庫から出発前の乗務員には待機の指示をしました。また走行中、特に海岸付近を走行している乗務員には津波の危険がありましたので、最優先で各自の携帯電話に連絡を入れ車庫へ戻る、あるいは安全な高台へ避難するよう指示を出しました。

地震発生直後は携帯電話での連絡が可能でしたが、除々に繋がらなくなりました。また、バックアップ電源を備えた事務所の電話も、そのうち電気が無くなり不通となりました。ただし、予約専用の別回線1つだけが使用可能でした。その電話をなんとか利用して運行状況の把握に努めましたが、全車両との連絡までには至らず、なかなか営業所からも乗務員からも連絡をとるのが難しい状況でした。

<路線バス>

市内の路線バスでは、折り返し地点からJR銚子駅へ戻ってきますので、連絡の取れなかった乗務員については銚子駅にスタッフを配置させ車庫へ戻るよう指示を出しました。また、名洗・千葉科学大学路線のバスについては、連絡が取れましたので海岸から離れて車庫まで戻るように指示しました。このような対応により市内に出ていた全車両の運休状況が確認できたのは15時30分頃でした。

なお、市内の道路では亀裂や歪んだ箇所も一部見られたようですが、走行中の乗客に怪我もなく無事でした。また、車両についても損傷がなく、渋滞も特になかったと聞いています。

海岸沿いを走行する旭市の路線では、当初2台が運行していました。連絡が全く取れない状況でしたが、その後、旭車庫勤務の職員に連絡が取れたので、運休の指示と終了点呼ができなくなっている旨を説明しました。運行していた乗務員は何も情報が入ってこない状況の中、そのまま運行して旭車庫まで戻りました。

香取市の代替バス2台についても、地震発生直後から乗務員と連絡が取れない状況でした。当時は佐原粉口車庫にて休憩中で、地震で車庫内の地面に隆起した箇所ができたようですが、ただちに整地したとことを後から聞きました。2台とも乗務員の判断で最終便発の1時間遅れの状況で運行し、旭車庫まで無事に戻りました。乗客はいなかったと聞いています。

旭車庫内の全車両が無事に戻ったことと担当乗務員が全員退勤したことについては、旭車庫から帰宅途中であった職員が銚子営業所に立ち寄って報告してくれました。

<高速バス>

高速バスは、地震直後から高速道路の全面通行止めに直面しました。走行中の高速バス

については車載電話に連絡を試みましたが、すでに電話が繋がりにくい状況でした。高速道路を利用できないこともあり、乗務員から営業所へ電話連絡が入り、その場での一時待機の指示を出しました。各場所にて一時待機していた車両は、その後電話が通じない状況が続き、連絡に大変時間が掛ってしまいました。

しかし、どうにか連絡をとる努力をしまして、そのまま乗客を乗せた状態で運行経路を戻ってもらい、乗車した場所で降りて帰宅していただくよう説明をしました。なお、1台だけが京成成田駅まで向かうことになりました。そのバスは乗車された乗客の多くが、銚子駅に戻るより交通の便が良い成田駅まで運行することを切望されたからです。緊急でやむをえない状況でしたので、国道51号を利用して行くことを許可しました。その車両が京成成田駅に行った後、銚子方面に戻って残った乗客を降ろしながら帰庫したのは夜中の1時近くでした。

東京に向かい高速道路を走行していたバスも1台ありました。そのバスについても連絡が取れませんでしたでしたが、終点の浜松町バスターミナルまで、無事に到着できたことを乗務員の方から連絡がありました。

停車中の高速バスは浜松町バスターミナルに5台いました。その内3台は連絡が取れまして浜松町バスターミナルで安全が確認できるまで待機の指示を出すことができました。待機したバスは翌日の9時過ぎに回送で銚子に戻りました。

一方で、浜松町バスターミナル発14時50分と15時40分の2台については全く連絡が取れませんでしたので、通常通りの運行になりました。また、幕張運転免許センター発17時10分の1台についても全く連絡が取れないままとなり運行しました。合計3台の高速バスが運行管理を受けられない状況の中での走行となりました。GPSを利用したバスロケーションシステムがあったのですが、停電により営業所では確認できない状態でした。成田の事務所は停電になっていなかったため、これら車両の位置を捉えていましたので、連絡が取れた際には情報提供してもらいました。運行したバス3台と直接連絡が取れたのは夜中12時前後でしたが、乗客と乗務員に怪我はなく無事であることを確認できました。全て一般道路を利用し、途中コンビニエンスストアで臨時停車を行って食料や飲料水の確保に努めながら運行中であるとの報告がありました。至る所で一般道の渋滞が激しかったとのことですが、夜中の2時過ぎに3台とも車庫へ無事到着することができました。

なお、当時は電車が全線ストップしていましたので、バスが動いていることを知った方々が、駅近くのバス停に多数集まっていたとのことでした。当然ながら高速バスにも人が多数押し寄せて来たとのことでした。定員52名ということもあり、乗車できない乗客もいました。緊急事態なので、本来なら待機・運休のところでしたが、1台だけを千葉駅へ向かわせる臨時便を設けることになりました。そのバスについても夜中の2時から2時半に銚子に戻ってきました。

最終的には全ての高速バスについても乗客、乗務員に怪我もなく無事でした。事故もなく無事に運行ができて良かったと思っています。また、車両についても損傷等はありませんでした。後日ですが、臨機応変に安全な場所まで運行してくれたことに対し、とても感謝していただいた乗客の話を聞くことができました。

< 銚子営業所 >

太平洋沿岸に大津波警報が発令されたことをテレビで知り、危険な状況であることは認識していました。営業所内の職員も避難しなければと思いながらも運行状況の把握や乗務員への指示等に努めなければならない使命がありましたので、避難せずに営業所にいました。

家族の心配もありましたので、業務の合い間の電話が繋がった際に安全であることを確認しました。もし仮に家族が怪我をしたとしても、途中で家に向かう状況ではありませんでした。

営業所内では停電しましたが、千葉交タクシーでポータブルの発電機を用意してくれた方がいましたので、明り等の電源は確保できました。とても助かりましたが、電話回線までの電源は足りませんでした。また、室内についても寒い状況が続いてました。なお、そのタクシー会社はグループ企業でしたので、営業所内を共有して使用していました。各地の被害状況等の情報はタクシー無線から入りました。当初は職員2人、タクシーの無線担当の方1人の計3人で所内にいましたが、路線バスが戻ってきてから乗務員が徐々に増えて行きました。本来ならば当直は1人でしたが、緊急事態でしたのでバスの方は夜間を通して2人配置し翌朝の9～10時ころまで対応をしていました。

大きな余震が何度も続いてきたこともあり、路線バスについては翌日早朝のダイヤから全日、全車運休することを決断し、利用者が確認できるよう各バス停に運休の告知ビラを貼り付ける措置を行いました。高速バスについても当然ながら運行を見合わせました。3月13日以降については、JRは運休や計画停電による間引き運転でしたので、我々は路線の安全を確認した上で、3月13日以降は臨機応変に通常運行にすることにしました。電車が動いていませんでしたので、利用者はとても多かったです。特に旭地域のバスでは満席になってしまいました。普段は1日1便程度で、そんなに乗客もいないのですが、大型バスを1日3～4台運行する状況が2～3日続き、乗客からはとても助かるとの感謝の言葉がありました。

なお、銚子営業所では、バスの燃料確保を緊急時に備え、全車両が満タン状態で3日間程度は持ちこたえる量の軽油を備蓄しています。したがって、今回は燃料が不足することもなく大丈夫でしたし、緊急の場合でも燃料がある限りは運行できる状態でした。

○ 今回の地震・津波をふまえて

今回の地震では、やはり電話連絡でのやりとりが難しかった点が課題でした。停電は朝まで続きましたので、まさかここまでになるとは思いもしませんでした。バスは乗客を載せて走行してますので、連絡がなかなか取れなかった車両については、心配ばかりが先走り、とてもつらい思いをしました。

千葉交通では交通事故、台風、バスジャック、火事、地震等の緊急時に対応するため、のマニュアルがあり、災害の情報が入った場合や災害に見舞われた場合は、乗客を危険な場所から避ける対応をとることになっています。しかしながら、これらマニュアルについては情報通信網が使えることが前提ですので、今回のように連絡の取れない事態については想定していませんでした。幸いにも、乗客、乗務員ともに死傷者はなく、すべての車両についても全損、破損も一切なかったのが本当によかったです。今後は車載電話だけでなく無線等も装備して連絡が十分に取合えるような体制づくりを進めています。また、営業所内についても、今回の教訓として既に発電機を装備しています。

営業所から別の場所への避難については、緊急対応をしなければなりませんので危険を目の当たりにするまでは避難できないと考えています。ただし、携帯電話や無線等の連絡体制のとれる装備自体が移動可能となれば、避難先でも対応ができるのかもしれないとも思いました。

観光施設の体験談ヒアリング①

観光施設（ウオッセ21：事務員）

○ 地震発生時の状況

<地震発生 2011年3月11日 14:46>

地震の揺れはとても大きかったです。事務所では書棚の転倒等はありませんでしたが、商店内に積んでいた缶詰等が崩れました。近くにあるポートタワーの3階にいた人の話しでは、すさまじい揺れだったそうです。

揺れが収まって間もなく、防災無線がはっきりと聞こえてきました。「海岸付近にいる方は高台へ避難してください」という内容でした。そのうち、消防広報車による避難指示の呼びかけもありました。停電はなかったので、テレビをつけて地震情報を確認したと思います。

当時は、バス2台で観光客が80人程度来ていまして、商店内や駐車場にいました。駐車場にいた観光客の中には、地震の揺れで立ってられず、バスの脇に座り込んでしまった方もいたそうです。事務所ではただちに館内放送で「高台に避難してください。バスに乗り込んでください」などの内容を放送しました。急いでバスに避難する人もいれば、館内放送を流しても、まだお土産を買っている観光客も何人かいたと聞いています。

○ 避難行動開始

<高台へ避難 15:00頃>

観光バス2台が避難のため出発しました。おそらくそのまま帰ったと思います。商店内や駐車場に人がいないことを確認して職場の仲間とともに車でポートタワーの駐車場に避難しました。駐車場は、高台になっているので多くの人が避難していました。その後、さらに高台にあるスーパーの駐車場が広いので、そこに移動しました。

車で移動する際、特に渋滞等の混乱はありませんでした。高台に向かう途中の坂道では津波を見ようとしている人が結構いました。

その後、揺れも収まったように感じたので、社内の後片付けをしようと事務所に戻りました。

<大津波警報で再び高台へ避難 15:30頃>

事務所での後片付けの最中に防災無線の「大津波警報」を聞いたので、急いで車に戻って再び高台のスーパーに避難しました。途中での交差点には消防車が待機していて、低地に向かう人や車の立ち入りを制限していました。しばらく高台で待機していましたが、することがないので、ラジオをつけて地震情報を聞きながら自宅へ帰りました。自宅に帰る途中も、渋滞はなくスムーズに移動できました。

自宅に帰ってもしばらくは余震による揺れが続いていましたので、怖くて車内で待機していました。その後、だいぶ寒くなってきたので家に入りました。

断水もありましたが1日程度で復旧しました。なお、家族との連絡には携帯電話を使用していましたが、夜になっても不通状態でした。

○ 地震と津波による被害状況

翌朝、会社に行くと駐車場や道路には、泥や砂、漂流物がありましたので片付けました。敷地内では地盤沈下や液状化による泥水の噴き上がり等は見られず、大きな被害もありま

せんでしたので、3月13日から営業を再開しました。震災後、計画停電がありましたので営業時間を停電範囲から外して営業していましたが、観光客はなかなか来てくれませんでした。

今回は停電がなかったのが良かったのですが、もし停電が発生したら冷蔵庫に入れた水産物はダメになっていたかもしれません。なお後で聞いた話ですが、すぐ近くの港で船が津波により流されて衝突した被害があったそうです。

○ 今回の地震・津波をふまえて

津波に対する避難訓練は実施していませんでしたが、消防訓練を年1回程度実施していたので、それに近い形で避難誘導できました。

また、携帯電話の防災メールの登録もしました。津波のハザードマップは以前に回って来ましたので知っていましたが、まさか本当に津波が来るとは思いもしませんでした。今回の津波でだいぶ意識が変わりましたので、津波が来ない道路や高台を確認して避難しようと考えています。

個人でも家族会議をして、避難場所を再確認して家族の集合場所を決めました。

なお、港の外には防波堤があったので、これがある程度役目を果たしたのではないかと思います。防波堤がなかったら、かなりの津波浸水による被害があったかもしれません。

< コラム4：大幸神祭 >

大幸神祭は20年ごとに行われる神事です。1102年(康和4年)に銚子高神の高見の浦(外川)に大津波が起った際、東大社(東庄町宮本)、雷神社(旭市見広)、豊玉姫神社(香取市貝塚)の三社が海神様の怒りを静めるためにこの祭りが行われるようになりました。銚子では海神様への信仰とともに大津波を忘れないための教訓として重要な文化継承の行事になっています。



平成22年4月11日 銚子大幸神祭 (銚子市長賞：「ハレ舞台」)